

朋 友

1999 (第15号)



東京電機大学中学・高等学校同窓会

《表紙について》

本誌名の「朋友」は、仲の良い友達とか友人という意味を持ち英語での「FOR YOU」……（会員の皆様方のための）という意味を持たせております。これは同窓会幹事会において鷺見篤氏よりご提言いただいたものです。

また、表紙の画は河部貞夫先生作のレリーフ「若者の像」を、本誌のため再度先生にデッサンしていただいたものです。もともになったレリーフは、学園創立60周年記念に合わせて、同窓会で募金したレリーフ基金及び学園、生徒会の援助により製作されたもので、小石川校舎玄関口右手におかれていました。現在では小金井校舎テニスコート脇に移設されております。

◇ ◇ ◇ 目 次 ◇ ◇ ◇

会長挨拶	1
記念式典報告	2
高等学校開設60周年記念式典式辞（校長 高久廣毅）	3
特集 同窓会設立40周年記念講演（東京電機大学学長 小谷 誠先生） 『超電導とその応用』	4
歴代幹事長・会長が語る同窓会の思い出	15
学校の近況	17
母校と同窓会の歩み史	20
卒業生数一覧	25
クラス委員一覧	28
平成11年度 幹事会議事録	35
同窓会総会報告	36
会 則	39

ごあいさつ

東京電機大学中学・高等学校同窓会

会 長 萩 原 宏 芳



同窓生の皆様には益々ご健勝のこととお喜び申し上げます。

本年は、同窓会創立40周年を迎え記念事業を実施してまいりましたが、この「朋友」第15号を40周年記念号として発刊することで記念事業の締めくくりとなります。

「朋友」は同窓会創立25周年の記念誌として当時の印宮会長をはじめとする役員の方々の大変なご努力により創刊されて以来、年々内容を充実してまいりました。この間に編集に携わってこられた多くの関係者各位のご苦勞に改めて御礼申し上げます。

さて創立40周年の記念事業として、高等学校設立60周年をお祝いいたしました。皆様方のご支援、ご協力を頂き成功裏に講演会、記念式典、祝賀会を遂行できましたことを心から御礼申し上げます。

今回は何よりも、学校の発展に寄与することを第一の目的と思いを同じくするPTA、後援会と同窓会が、それぞれの創立50周年、20周年、40周年となる節目の年を一体となって記念行事を運営できたことは、学校にとって大変頼もしく感じていただけたと思う所でありますし、同窓会活動の今後にも有意義なものとなったと思われま。これからも三つの会が連携を密にして学校とともに歩んでいきたいと思ひます。

ところで卒業生の皆様、最近学校を訪ねたことがありますか。今年設立60周年を迎えた学校はこれまでも時代のニーズに合わせて変化をし今日の発展を見ていますが、今年は特に来るべき21世紀に対応する第一歩を踏み出した記念すべき年と言えるでしょう。

まず、中学校の第一期卒業生が誕生し全員が高等学校に進学いたしました。高等学校は工業系学

校から普通科系高校へと学科の編成がなされました。そして何よりも女子生徒の入学による男女共学校となり大変な変貌を遂げました。

9月18・19日の2日間にわたり開催された武蔵野祭（文化祭）を私も見学させていただきましたが、クラス対抗の合唱に始まり文化祭という、まさにお祭りにふさわしい雰囲気会場いっばいに感じられ、我々の時代のどちらかという実験授業の延長であったような感じはなくなりました。女子生徒の参加がこんなにも変化をもたらすものかと改めて女性のパワーの強さを感じました。

皆様も機会を見て学校を訪問し、変化の様子を眼のあたりにしていただきたいと存じます。

おわりになりましたが、同窓会の40年間を支えつづけていただきました歴代幹事長、会長、役員を始めとする多くの卒業生の皆様に御礼申し上げますと共に、今後とも同窓会活動へのご理解とご指導をお願い申し上げます。

皆様方のご健康と益々のご活躍を祈念申し上げます。ごあいさつといたします。

高等学校開設60周年・同窓会創立40周年 記念式典報告

平成11年は、東京電機大学高等学校が東京電機工業学校として昭和14年4月に開設されてから60周年にあたるとともに、昭和35年4月設立の高等学校同窓会にとっても創立40周年となる。

また、PTAと後援会もそれぞれ創立50周年・20周年を迎えた。これを記念して、平成11年6月19日、「高等学校開設60周年」、「PTA創立50周年」、「同窓会創立40周年」、「後援会創立20周年」を祝う合同記念行事を開催した。

当日は、小金井キャンパスメインアリーナで記念講演、ホールで記念式典、吉祥寺第一ホテルで記念祝賀会が行われ、校友、保護者、教職員、生徒らが多数出席した。

なお、60周年記念行事に先立って小金井キャンパス会議室で中学・高等学校同窓会平成11年度総会も開催された。

●中学・高等学校同窓会平成11年度総会

同窓会総会は、午前9時より小金井キャンパス会議室において開催され、事業計画・予算案・役員改選等の議案が承認され、平成11年度同窓会活動がスタートした。

●記念講演

午前10時からアリーナにおいて、大学長小谷誠先生による記念講演「超伝導とその応用」が行われた。熱心に聞き入る在校生には年少の中学生や女子生徒も交じり、あらためて学校の発展と変遷を感じさせた。



●記念式典

続いて、小ホールにおいて記念式典が開催された。萩原宏芳実行委員長の開式の辞につづいて、丸山孝一郎理事長が挨拶を述べ、次いで高久廣毅

校長より挨拶があった。引き続き来賓として加藤勝一校友会理事長より祝辞があった。

この後、清里寮管理人として長年にわたり生徒たちに貴重な体験と思い出を作りつづけてこられた菊池福雄氏、ならびに、20年間後援会会長を勤めクラブ活動を支えてこられた池ヶ谷道夫氏のお二方に対して感謝状の贈呈があり、記念式典は厳粛裡に終了した。



●記念祝賀会

記念式典終了後、吉祥寺第一ホテルに会場を移して、午後1時30分より記念祝賀会となった。丸山孝一郎理事長、高久廣毅学校長挨拶、来賓として津田浩二PTA会長、萩原宏芳同窓会長、池ヶ谷道夫後援会会長の祝辞に続き、加藤勝一校友会理事長の音頭による乾杯を行い、祝宴となった。

参加者は卒業生、PTA、校友会、大学・電機学校同窓会役員、教職員をはじめとする学園関係者ら300名余りで、極めて盛会であった。途中アトラクションとして弦楽合奏などもあり、終始和やかな雰囲気であった。今年101歳を超えられた池谷武雄元校長(現学園顧問・名誉教授)の挨拶で、祝賀会はお開きとなった。



東京電機大学高等学校開設60周年記念式典

式 辞

平成11年6月19日

東京電機大学中学・高等学校
校長 高久 廣 毅

本日、ご来賓として同窓生、PTA、後援会、学園関係の多数の皆様にご臨席いただき、高等学校開設60周年並びにPTA創立50周年、同窓会創立40周年、後援会創立20周年の記念式典を挙げることは、無上の慶びとする所でございます。ここに教職員を代表し厚く御礼申し上げます。

学校法人東京電機大学92年の歴史の中で、高等学校60年の歩みを振り返ってみますと、昭和14年4月、実業学校令に基づき「東京電機工業学校」として出発し、昭和19年には、もう一つの工業学校「電機第二工業学校」が発足しました。この二つの工業学校が昭和23年統合され、新制高等学校令に基づき「電機学園高等学校」となり、同時に普通科が新設されました。そして、昭和31年には大学の発展にともない、名称を現在の「東京電機大学高等学校」と改めました。

昭和40年、高等学校を神田錦町より文京区後楽の小石川校舎へ移転し、さらに、平成4年、教育環境の充実を求めて小金井市の現校舎に移転し現在に至っております。

また、平成8年には理工系総合学園の中で、大学院迄の一貫教育を理想に、中学校を併設開校し、本年は中学校からはじめての内部進学生として、高等学校へ54名が進学しております。

開設当初、募集定員50名でスタートした本校も、今年、4月の一年生の定員は、高等学校360名、中学校40名、在籍総数は高等学校1,105名、中学校178名、合計1,283名がキャンパスで勉学に励んでおります。教員数は中学校・高等学校合わせて専任65名、事務系職員11名、非常勤教員41名の陣容でございます。

高等学校は開設以来59年間、男子のみの募集でしたが、近隣の方々他、関係の皆様からのご要望や、諸教育活動の活性化をふまえて、今年度から男女募集を開始し高等学校に女子86名、中学校に女子12名が入学しました。

また、近年は卒業生がほぼ全員大学進学希望であることから、伝統ある工業課程を本年より普通科に統合しました。

昭和から平成への激しい変動の中、世間からは変わらぬ評価をいただき、多数の志願者を集めて



おりますことは、教員・生徒の努力はもとより、歴代理事長・校長をはじめ諸先輩方のご努力の賜と、あらためて敬服と賞讃の意を表す次第であります。ここで、本日記念式典の共催と共に、日頃ご支援頂いておりますPTA・同窓会・後援会について

一言述べさせていただきます。

戦後、新制高等学校ができると同時に発足しましたPTAも創立50周年を迎えました。PTAの皆様には、学校諸行事や活動にご協力いただき、特に近年では文化祭におきまして「憩いの部屋」開設に特別のご協力をいただいております。また、学外においても、私立学校の学費軽減につながる都助成増額の陳情、請願運動を他校PTAの皆様と「父母の会」を通じて活動していただいております。

中学校・高等学校同窓会も今年で創立40周年を迎え、学校の恒例行事となっております体育祭や講演会には、毎年多大なご援助をいただいております。また、この式典の開催にあたり、諸計画から実行まで、実行委員長の萩原同窓会長はじめ多くの皆様からご協力をいただきました。

東京電機大学中学・高等学校後援会は、部活動活性化のため、多大なご援助をいただいている団体であり、在校生および卒業生の保護者の皆様と同窓生の皆様からなる任意の団体であります。本年は記念すべき20周年を迎えることになりましたが、この間バレーボール部の関東大会出場や、もはや毎年の恒例となりつつある自転車競技部のインター杯出場等へも、ご援助をいただいております。後援会創立以来20年間、会長としてご尽力をいただいております池ヶ谷後援会長には、特に感謝の意を申し上げる次第です。

さて、現況社会を省みれば、少子化は急激に進行しており、確固たる理念と実績のともなわない私立学校には、志願者が集まらない状態がすでに現実となっております。本校におきましては、先達の諸先輩方が今日まで営々と築かれ、私どもにひきつぎ下さいました栄光と伝統を守り、さらに発展させるべく、新時代に生きる青少年の人間形成と学力の向上に、教職員一同精一杯の努力を傾ける覚悟でございます。

本日のご来賓の皆様方には、何卒、今後とも宜しく叱咤ご鞭撻とご指導を賜りますようお願い申し上げます。式辞といたします。

同窓会創立 40 周年記念講演

「超電導とその応用」

講師 東京電機大学学長 工学博士 小谷 誠先生

平成 11 年 6 月 19 日
於 東京電機大学中学・高等学校メインアリーナ

〔小谷誠先生略歴〕

高知県生まれ
1967年3月 東京電機大学大学院博士課程終了
1972年7月 工学博士
1977年10月 東京電機大学工学部電子工学科教授
1995年4月
～98年3月 東京電機大学工学部第一部長
1998年4月
～現在 東京電機大学学長

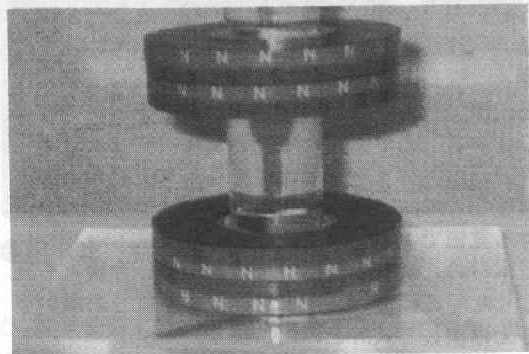


1975年10月～77年10月 マサチューセッツ工科大学留学
1985年6月～97年6月 ライフサポート学会会長
1997年6月～99年6月 日本生体磁気学会会長
1988年6月 第3回生体磁気国際会議議長
1998年8月 第11回生体磁気国際会議議長
1998年8月 生体磁気国際会議
～現在 アドバイザーコミティ委員長

磁石の不思議

皆さんこんにちは。ただいまご紹介いただきました小谷です。

今日は超電導とその応用ということで、最初にリニアモーターカーの話をしていただきたいと思っています。山梨県にあるリニアモーターカーの実験線はご存じですね、実験線が決まったときに、私は県知事さんの顧問として、リニアモーターカーの推進委員会の委員となりまして、山梨県には



〔写真1〕 磁石

何回も行って講演しました。そのときに写真1のような二つの磁石を持って行ったんです。

今日は高久校長先生に頼んで、電大高校で作っていただきました。この二つの磁石が反発して一つの磁石が上にあがっています。これを机の上に置いておきますが、講演が終わっても上の磁石は下がらない。1年経っても下がらないですね。エネルギーを与えていないのにいつまでも上がり続けるんですね。ですから、ものすごく強い磁石を持ってくれば、この机でも、あるいはこの建物だって、磁気の反発力で上げることができます。上がったまま、1年経ってもこの距離は変わらない。エネルギーは全然与えていないのに下がらない。なぜだと思いますか。磁気の反発力で上げる力というのは、全然エネルギーがいらぬんですよ。つまり、エネルギーを使っていないんです。

今日お話しする、リニアモーターカーは、重さは皆さんも乗ったことがある新幹線の半分程度です。それでも重いですよ。それが磁気の反発力で10

センチ上がって、東京から大阪まで1時間で行く予定です。その実験線が山梨にあるんです。

今日は最初にその話を20分程させていただいて、そのあと、皆さんの脳の話をしていただき、そして最後に、学生時代の心構えについて話をさせていただきたいと思っています。

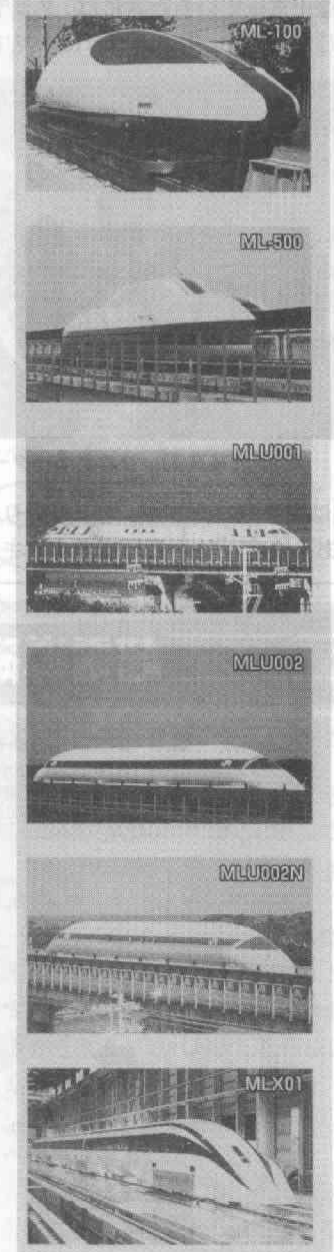
リニアモーターカー

それでは、OHPを使ってお話しします。

リニアモーターカーは表1に示すように1962年からスタートしました。そして、1990年頃に山梨県に実験線を作ろうということが決まったんです。

リニア技術開発の歴史

- 1962 ■リニアモーター推進浮上式鉄道の研究開始
- 1970 ■超電導磁気浮上の基礎試験装置完成
■全国新幹線鉄道整備法公布
- 1972 ■磁気浮上走行に成功
- 1973 ■中央新幹線が全国新幹線鉄道整備法に基づく基本計画路線として決定
起点 東京都 終点 大阪市
主な経過地 甲府市付近、名古屋付近、奈良市付近
- 1977 ■宮崎浮上式鉄道実験センター開設
- 1979 ■ML-500が517km/hの世界最高速度を記録
- 1987 ■MLU001が有人走行で400.8km/hを記録
- 1989 ■本格的な実験線の建設、山梨県(中央新幹線想定ルート)に決定
- 1990 ■運輸大臣がJR東海および鉄道公団に中央新幹線(東京都・大阪市間)全線地形、地質等に関する調査を指示
■運輸大臣が「超電導磁気浮上方式鉄道に係る技術開発の円滑な推進について」通達。東海新幹線との一元経営を確認(公文書の交換)
■運輸大臣が山梨リニア実験線の「建設計画」「技術開発基本計画」を承認
■山梨リニア実験線着手式
- 1992 ■山梨リニア実験線先行区間18.4kmを発表
- 1994 ■MLU002Nが431km/hを記録
- 1995 ■MLU002Nが有人で411km/hの浮上式鉄道での国内最高速度を記録
■山梨リニア実験線第一編成車両(MLX01 3両)車両基地に搬入
- 1996 ■「超電導磁気浮上式鉄道山梨実験センター」発足
■山梨リニア実験線で総合調整試験開始
- 1997 ■山梨リニア実験線先行区間完成
■山梨リニア実験線で走行試験開始



〔表1〕 リニアモーターカー

そのときに、先ほども話したように、私も推進委員のひとりに選ばれました。その頃山梨県では、こんな強力な磁石、超電導の磁石で走る電車が出来ると、まわりに非常に悪い影響がでるのではないかと心配する人々がいました。そこで、この実験線は宮崎にありましたから、心配する人たちを宮崎に連れていくことにしました。そのとき私も行く予定でしたが、私の行く3日前にリニアモーターカーが燃えました。なにが燃えたかといいますと、タイヤです。車両は磁石で上がることになっていますけど、実は止まっているときには、タイヤがあって、車と同じなんです。皆さん飛行機を見てください。



【写真2】 リニアモーターカーの車内

飛行機は空を飛びますが、地上に降りたときはタイヤがありますよね。飛行機も400キロぐらいの

スピードになるとはじめて上に上がるんです。走らないと上がらないんです。リニアモーターカーも、スピードが出ないと上に上がりません。

このまえ、たまたま理化学研究所理事長さんや本学の島田さんと一緒に乗せてもらいました。内部は写真2のように飛行機と同じで、窓も飛行機と同じくらいです。乗ったらすぐに450キロぐらいのスピードになります。

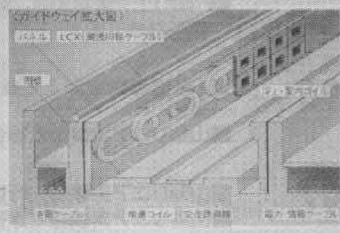
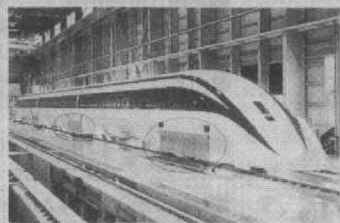
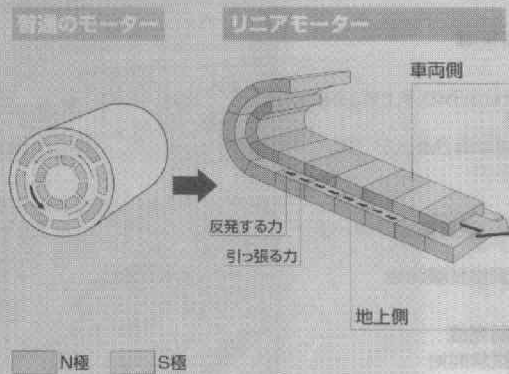
それで、リニアのモーターがどうなっているのかを図1を用いてお話しします。皆さんはモーターはよく見ると思います。原理は知っているかどうか知りませんが、洗濯機とか冷蔵庫についています。モーターは、中に永久磁石があって、外に電磁石があって回っているんです。リニアというのは、このところ、真ん中から切って、長くしたもので、リニアとは直線ということですから、直線のモーターということです。この上の部分が列車の内部に入っているんです、外は線路にずーっと敷き詰める、外のこの周りのコイルは東京から大阪まで線路にずーっと敷き詰めることになるんです。これがリニアモーターです。

実は、リニアモーターカーの内部に強い永久磁石があります。あとでお話ししますが、超電導の強い磁石があって、下は実はコイルです。磁石ではなく、コイルだけだと、列車が走ると超電導の磁石が下のコイルに電流を誘起して下に磁石が出来て、反発

超電導磁気浮上式鉄道の概要

リニアモーターとは。

リニアモーターとは、従来の鉄道車両のモーターを直線状に引きのばしたもので、このモーターの内側の回転子が車両に搭載される超電導磁石、外側の固定子が地上に設置される推進コイルに相当し、これにより地上側から推力を与える地上一次のシステムです。

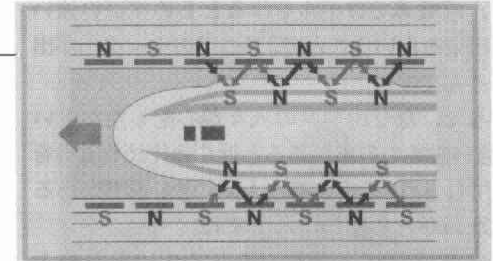


【図1】 リニアモーターとは

超電導リニアモーターカーの原理

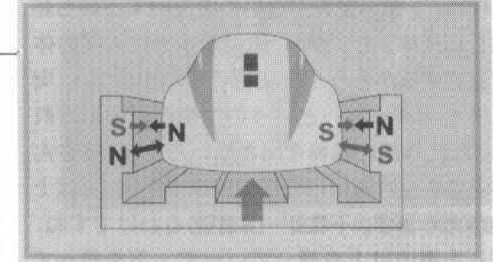
推進の原理

地上の推進コイルに電流を流すことにより磁界(N極・S極)が発生し、車両の超電導磁石(N極・S極を交互に配置)との間で、引き合う力と反発する力が発生します。これを利用して車両(超電導磁石)が前進します。



浮上の原理

地上ガイドウェイ(軌道)の側壁両側に8の字の形をした浮上案内コイルが設置されており、車両の超電導磁石が高速で通過すると両側の浮上案内コイルに電流が流れて電磁石(8の字の上の輪が超電導磁石と反対極に、下の輪が同一極)となり、車両(超電導磁石)を押し上げる力(反発力)と引き上げる力(吸引力)が発生します。



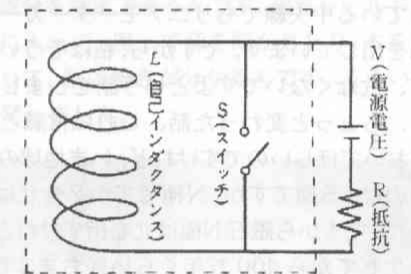
【図2】 リニアモーターカーの原理

力で車両が上がります。500キロで走るときには、このリニアモーターカーは10センチ線路の上を飛んでいくようになっています。

図2を用いてリニアモーターカーの原理を話させていただきます。線路の両側の壁にコイルがあって、リニアモーターカーの中に強い超電導の磁石がありまして、これで引っ張って行くんですね。引っ張って前へ進めるんですね。ですから、スピードに応じて周波数を変えなければいけないということですから、一つの線路で、たとえば50キロぐらいの区間で、一つの車両しか走れないんですね。

リニアモーターカーに使っている超電導というのはどういうのか説明します。皆さんもご存じと思いますが、超電導とは抵抗が0ということです。抵抗が0というのが超電導といわれても、0オームを測るのは難しい。現在測定できるのは10のマイナス8乗オームまでです。0.00000001オームまでは測れますけど、それ以下は測れないということで、超電導かどうかを確かめるのは非常に難しいんです。でも、超電導現象というのはずっと昔からありました。液体ヘリウムの温度マイナス約270度で超電導になるものを低温超電導と呼びます。液体窒素の温度はマイナス約200度くらいで、これよりも高いものを高温超電導といいます。高温といたって、マイナス200度以上です。今から10年ぐらい前に新しい材料が見つかって、多くの高温超電

導材があります。



【図3】 超伝導磁石の原理

超電導で非常に面白い現象は、皆さんは電磁石の原理はよくご存じだと思いますけど、電線に電流が流れますと、右ねじの法則で磁場が発生します。ですから、この電線を丸めてコイルを作ると、実は磁力線が、ここから外へ出てきますから、非常に強い磁場が出来るわけです。そこで、超電導のコイルに電池を接続すると抵抗が0ですからこの状態で、コイルにいくらでも電流が流れる。たとえば図3のように抵抗と電池で電流を調整して100アンペア流しておいて、このスイッチを閉じます。そしたらこの100アンペアはコイルにずーと流れます。電池を切っても、このコイルには100アンペアは流れ続けます。永久に流れます。そしたら、ここの磁場は非常に強い磁場になります。よろしいですか、超電導とは抵抗0ですから、いくらでも電流が流れ

ます。流れている電流をここで閉じると、電源が無くなっても、100アンペアは流れ続けるんですね。不思議ですが、そういう性質を持っている。ですから、超電導でコイルを作るとものすごい強い磁場が出来るといことで、リニアのモーターが出来ているんです。

ところで、なぜ山梨県の人々が心配したかという、強い磁場の列車が通ると近くの住民も磁場を受けるでしょう、そうすると人間に悪い影響があるのではないかと心配したんですね。

さっき抵抗が0というのを測るのは難しいといったけれど、悪い影響がないのを証明するのも非常に難しいです。ですから、磁場が本当に人間の体に悪い影響するかどうかを証明するのは難しい。実はリニアモーターカーというのは磁石は強いけれど、そんなに外部に磁場を出さないんです。皆さんが一番磁場を受けるのは普通の電車です。電車は上に架線があります。下にレールがあるわけですね、そうすると電流は上を通って行って、下を通って帰ってくるので、上の架線と線路の間が右ねじの法則から磁場が一番強いんです。ですから、皆さんは通学電車の中で毎日強い磁場を受けています。近くを走っている中央線でもリニアモーターカーよりも磁場を出しています。ですから、私はそういう話をして、危なくないですよという話をしました。

あと、ちょっと変わった話、これは常識として憶えておいてほしいのですけれど、いま地球の北極にあるのは、S極ですか、N極ですか？今北はS極ですよ。ですから磁石N極は北を指すけれど、人間が誕生してから400万年くらい経ちますけど、北極にS極があるときと、N極があるときと、10回変わっています。羅針盤がいま北を向いていますが、南を向いていた年があったのですよ。

それでは、リニアモーターカーの話はこのぐらいにしましょう。

研究の話

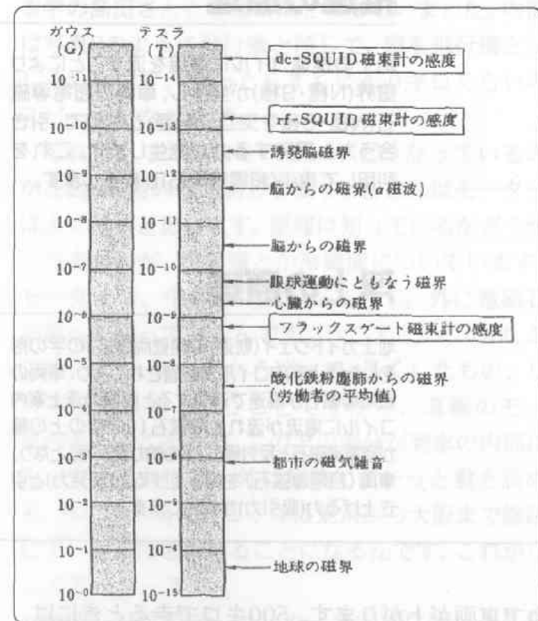
次に、私の専門の話をしてしまおう。

さっきもお話しましたように、電流が流れると磁場ができます。また、磁石があると磁場ができます。ですから磁場というのは、電流が作る磁場と、磁石が作る磁場があります。

私がMIT(マサチューセッツ工科大学)に行って研究したのは、人間の体から出てくる磁場を研究したんです。

図4に示すように皆さんの頭の中の脳からは地

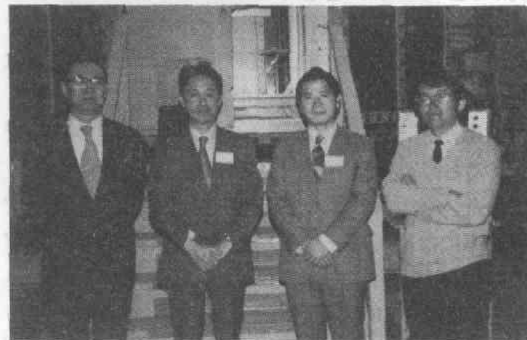
球の磁場の1億分の1くらいの強さの磁場が出ている。心臓や肺などからも磁場が出ている。それを測って病気を見つけようという研究を長年やってきました。



【図4】 人体から発生する磁界の強さと計測器の感度

超電導技術を使うと、非常に弱い磁場が測れます。今から30年くらい前に磁場を測る超電導素子が発明されました。その素子を開発した人はノーベル賞を受賞しました。そういう素子を液体ヘリウムで冷やして人間の脳から出てくる磁場を測る、そういう研究をMITでやってきました。

人間の体から出てくる磁場は非常に弱いことから、地磁気を消した部屋の中に入ると外の磁場は全部消えてしまう、この部屋を磁気シールドルームといいます。この部屋の中の人が出ず磁場しか出てこないからこれを測って、病気を見つけようということなんです。



【写真3】 MITの磁気シールドルームの前で江崎博士と(左から2人目)

この写真3は今から25年前のもので、私も若かったですが、私の右の方はノーベル賞を貰った江崎玲奈博士、この間まで筑波大学の学長をされていました。ここはMIT研究所の2階ですが、江崎先生は1階でもものすごく強い磁場を使って実験をされてました。ぼくはその上の2階で世界で一番弱い磁場を測っていました。ですから、下は非常に強い磁場を作り、上では世界一弱い磁場を測っているという、矛盾していますが、そういうところで研究していました。江崎先生がノーベル賞を貰った後ですから、この日はパーティーの前にとった写真です。

私は日本に帰って来ましてからは、日本でも生体磁気の研究もする必要があるということで、通産省に申請しまして約60億円の研究費をいただきました。そして電機大学の千葉ニュータウン・キャンパスに研究所を作って、5年間研究しました。

来年工学部に入学する方は千葉キャンパスにいて貰うことになります。ただ、再来年、今高校2年生の方は、千葉はあまりにも遠いから、1週間に1回程度通学していただこうかと思っています。千葉キャンパスは広いから運動をここでやっていただく、コンピュータの勉強をここでやっていただく、あとの授業は全部神田でやろうと思っています。ですから、いまの高校1年生と2年生は1週間に1度程度千葉キャンパスに行くことになります。ただ、今、高校3年生の方には毎日行って貰います。

千葉キャンパスに生体磁気計測の研究所を作りました。60億円の予算がありましたから、10億円で研究所を作りました。これが生体磁気を測定する部屋、超電導素子を作る部屋、磁気シールドルームもつくりました。この中に人間が寝て、脳から出てくる磁場を測るということです。写真4は世界一の装置です。

磁気シールドルームの中に入り、ドアを閉めます。しかし閉めるといやがるから、あけたままで測ることも多いですが、本当に全部の磁場をうち消すためには、ドアを閉めることが必要です。患者さんと先生だけが中に入り、測定する人はみんな外にいる。60億円の予算で作ったのが写真4に示す装置です。磁気シールドルームの中に入って、この装置で測ると、皆さんの脳がどれだけ働いているかが分かります。

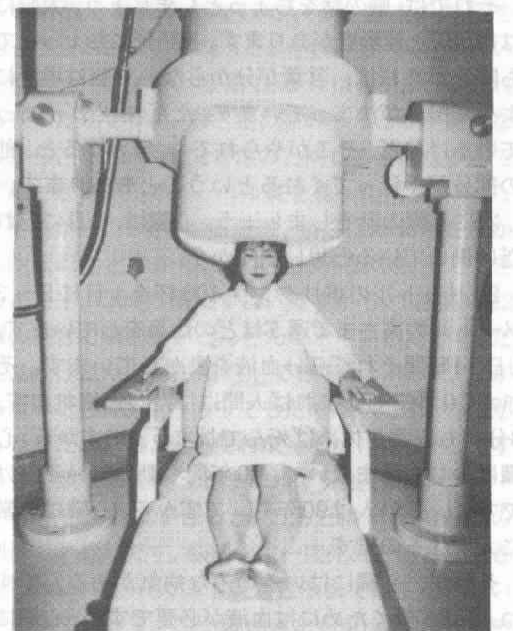
それから文部省その他から、また数億円の研究費をもらって、写真5に示すさら高精度の装置を作り



【写真4】 世界一の脳磁場計測装置

ました。

新しい装置は従来のものと何が違うかという、磁場はx、y、z方向を向いているから、新装置では各成分を測定できるんです。磁気シールドルームの中に入って、座って音を聞かせたり、本を読ませたりして、脳の働きが分かるんです。こういう装置を開発しました。



【写真5】 新型の脳磁場計測装置

装置の内部はコイルがいっぱいあって、どこから出る磁場も見逃さないようになっています。

この装置を用いてどんな研究をしているか説明します。たとえば「赤」という漢字を見せると脳のどこが働いているかが分かるんですね。脳の病気で、漢字は読めるけれど、平仮名は読めない人とか、その逆とか、そういう人がいます。平仮名を読ませたら脳のどこが働くか、そういうことを全部測ったんですね。そうすると、平仮名を読まずと、脳の言語野が働くんですね。ところが漢字を読まずと、言語野が働く人が半分、つまり頭の中で読む人が半分、半分の方は見ただけで意味が分かるんですね。だから、高速道路を走っていて、平仮名で「ひがしがねい」と書いてあったら、読むのに時間がかかるから、行き過ぎちゃう。ところが漢字で書いてあれば、ぱっと分かるでしょ。漢字はパターンで分かる。そういうことが、この装置で分かった。そうしたら、中国では非常に関心を持ち、僕の研究がテレビにも出たし、人民日報にも、日本の学者の研究によると漢字が有利であると、非常に認識が早いということが証明できたと載っていました。

しかし、漢字は憶えるのは大変ですよ。特に、電機大学の学生も含めて、理科系の人には記憶力が弱いですからね。なぜかという、そういう努力をしていない、考えることばかりしているから、そうなるんですね。

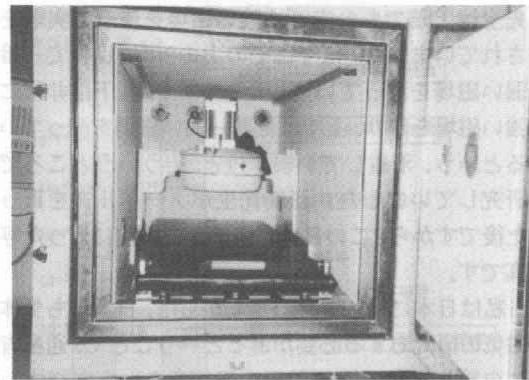
それでは、脳の話をちょっとしましょう。大脳には言語野と運動野があります。言語野にちょっとでも障害があれば、言葉が分からない。脳は場所によって担当が決まっています。ただ、担当が決まっているけれど、そこがやられても、努力すると、他の部分が手伝ってくれるということもあります。

次に心臓の話をしてください。心臓は、一日にどれだけ働いていると思いますか？

20リットルのポリタンク400杯を1日に2~3メートルの高さまで運ぶほどの仕事をしています。1日24時間それぐらい血液を動かしています。それが10秒でも止まれば人間はばたっと倒れます。3分間も心臓が休めば死んでしまう。ですから、心臓は少しも休まないで、80年間も動いているわけです。長い人は90年も。ですから、心臓は非常に大切なものです。

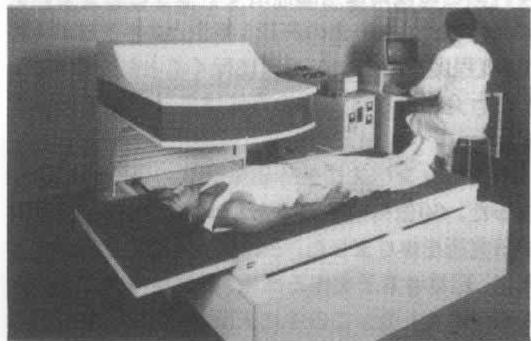
それが、心臓にはいろいろな病気があるんですね。心臓が働くためには血液が必要ですが、心筋に血液をはこぶ血管がちょっとでもつまれば狭心症。その血管が完全につまれば心筋梗塞になって死ん

でしまう。こういう病気を見つけるため、僕たちは心臓からの磁気を測っています。



【写真6】 高温の超電導生体磁気計測装置

次に、写真6は高温超電導材で作った装置です。液体ヘリウムではなくて、液体窒素で働く装置です。心臓からは非常に大きな磁気信号が出ていますから、液体ヘリウムではなくて液体窒素でも働く装置で測定しています。この装置は電機大学で開発された世界で最初のもので、先ほど話しました、通産省のプロジェクト研究で開発したものです。



【写真7】 電機大学で開発された肺磁界計測装置

その他に肺磁界の研究も行っています。肺だけは原理が違います。皆さんが鉄工所で一日アルバイトするとするでしょう、そうすると鉄の粉をすって肺にいっぱいたまります。でも、小さな粉ですからそれを測る方法がないんです。写真7に示す肺磁界測定装置は、私がアメリカから帰ったとき、財団から1000万のお金をいただいて、開発したものです。これを使って5000人ぐらいの労働者を測りました。

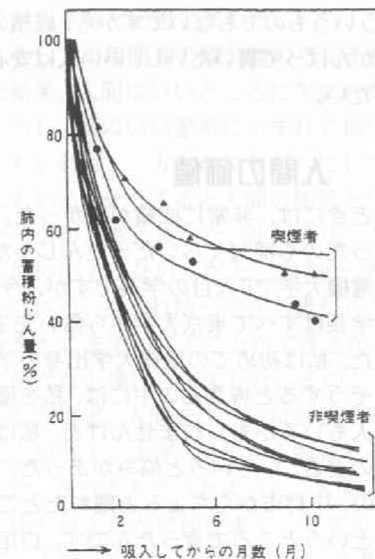
それで分かったことは、大きな会社は健康管理が進んでいるから、あまり吸ってない。ところが、そ

こから道を一步隔てた子会社へ行くと針が振りきれぬぐらい溜まっている。健康管理をやっていないからですね。トンネルの工事のときも、マスクもかけないでやっていると、非常に危険なことが分かったから、これは大変なことだということで、ある財団に申請して研究費をいただき、写真8に示すバスを買ったんです。その中にさっきの装置を入れてあります。これならどこでもいけるでしょ。



【写真8】 生体磁気計測用バス

ところが困ったのは私が大型自動車の免許を持ってなかったんですね。普通の乗用車は運転できますが、大型はできない。何とか早くとれないかと探したら、山の中で2週間合宿すればとれると云われましたが、そんな時間もないから、運輸省に交渉したら、バス全部を作業場にして座席を少なくし、大型バスを4人乗りにしましょうということになった。そうしたら普通免許で運転できますよということで、この大型バスを普通車にさせていただいたんです。そうすると不思議なことに、高速道路を走っていても、普通車料金しか取られない。なぜか



【図5】 アメリカ人の実験データ

などと思ったら、ナンバープレートが普通車と同じだから、高速料金も普通車と同じしか取られない。

これもおもしろい話ですが、これはMITにいるときにアメリカ人が実験したものです。たばこを吸う人と吸わない人に一度鉄工所で働いてもらって、1年間はそのところに行かないで、肺内に吸い込んだ鉄粉のゴミがどれだけ肺内から出るかを調べたんです。そうするとたばこを吸う人は半分しか出なかったんですけど、たばこを吸わない人は9割は出たんです。そのころ米国でアスベストというのが問題になっていて、アスベスト工場に働いている人でたばこを吸う人は、たばこを吸わない人より50倍癌になることが分かった。それはなぜかという、発ガン性物質を吸っても、出さないからであるということが分かった。

たばこは1本吸うと寿命を5分30秒縮めるんです。だから10本吸えば、1時間縮まる。毎日20本ずつ吸えば、2時間ずつ寿命を縮めます。

この後は、OHPを使わないでお話ししますので、電気をつけていただけますか。

脳の話

人間の脳は、右脳と左脳があります。2億本の電線というか神経で右と左がつながっているんですね。それで情報をやりとりしています。アメリカで、精神異常で暴れる人がいたんですね。その人たちの右脳と左脳をつないでいる2億本の神経を切ったらおとなしくなった。それから、何万人という病院に入っている暴れる人はみんな切られちゃったんですね。右と左の脳のやりとりが無くなるから、人間が二人できたのと同じことになるんですね。その研究でノーベル賞を貰った人がいます。

それから、人間の脳細胞は、皆さんがお母さんから生まれたときから、一日200万個の割合でできるんです。200万個ですよ。ですから、1秒間に22個の割合で脳細胞がどんどんできています。ただ、一日200万個の細胞ができて、線が繋がらないと、細胞だけあってもだめなんです。つながらせるためには、頭を使わなくては行けない。ですから、頭を多く使うとますます発展します。

それで、40歳すぎると、こんどは一日30万個の割合で減るんです。脳細胞は一度死ぬと絶対に生き返らない。だから、二十歳過ぎるまではすごい勢いで増えていって、二十歳過ぎたら40歳ぐらいまで平坦にいて、40歳過ぎたら一日平均30万個ずつ減る。ところが、頭を使っている人は、30万個へ

るところが、20万個になる。一日何も考えずにぼんやりとしている人は、30万個以上減ります。

皆さんも、自分は80歳まで元気で歩きたいから若いときは足を大切にしないで車に乗ってばかりいると、そんな人はむしろ50歳になったら歩けなくなる。人間の体は使えば使うほど長持ちするようになっていきます。

人間の成長については、生まれて最初の3年間ぐらいが大切です。動物実験、たとえば、猫をたて縄だけの部屋で飼育すると、テーブルの上に載せると、横線は全然分らないから、落っこちちゃう。逆に横縄だけの部屋で飼うと、縦が判断できないから、柱にぶつかる。人間でも、生まれてから3年間、真っ暗なところに住まわされたら、目は見えなくなります。

ただ、不思議なことに耳だけは、どんなに音のしないところでも、発達するんですね。それはなぜかという、生き物は心臓が働いているでしょう。その音が聞こえているので、外の音が聞こえなくても、自分が出す心臓の音で発達します。

このような理由で、皆さんも頭を使うようにしたほうがいいですよ。

記憶力と判断力

学校の成績というのは記憶力に比例しますが、ただ、脳細胞の数だけでなく、そこにつながる線がないと記憶力というのはできません。

現在、どうやって記憶しているかということは分かっていないんですが、いま私たちもさっきの装置で研究しています。記憶というのは脳細胞を強く刺激するとよいです。また、くり返しくり返し思いだしていると道ができるでしょう、たとえば、皆さんがどっか山の中にでも宝物を隠して置いた。それをしょっちゅう見に行くと道が出来るから、すぐ思い出す。それを10年も行かなかつたら、どうやっていくのかなという感じで、宝物も探すことが出来ない。ですから、覚えたことを何回も繰り返し思い出せばその通路ができますから、すぐに思い出せる。これが記憶です。

それで皆さん、学校の成績は主に記憶力で決まりますが、社会に出て本当に偉くなる人というのは、記憶力だけではだめなんです。判断力というのが必要なんです。それは20才過ぎた頃からはじめて出来るんです。記憶力は二十歳までに完成してあとは下降してくる。ところが判断力というのは二十歳過ぎた頃からでてきて、50才、60才と伸び

ていく。だから、学校の成績は俺より悪かったのに彼は出世したな、社会に出てから偉くなったなというのは、判断力ができたからなんです。ですから、成績が悪くても心配することは無いんですよ。

ですから皆さんは、大学を見て、東大にいったらものすごく偉いなど、電機大学にいけばこれぐらいかな、もっと下の大学もある。でも東大にいった人はものすごく偉くて、一番下の大学に行った人は偉くない。そういうものじゃない。確かに東大にいった人は努力家であるし、努力するからどんどん伸びる。しかし、大学を出ていない人でも伸びる人はいます。

たとえば、電機大学の卒業生のなかで一番大きな会社、従業員が何千人もいるような会社を作った人は、電機大学で留年しています。そのため、いい会社に入れないから、しかたなく自分で会社を作った。いまでは東証一部上場の会社になっています。そんな人もいます。

僕はいろんな人を見てきましたが、大学の成績がいい人が社会に出ていいわけでもない。成績のいい人は、たしかに平均的には、社会に出てからもいいです。皆さんの中には成績が悪くて、電機大学の工学部一部や理工学部には行けなくて、二部に行く人もいるかもしれないけれど、それで人生が決まる訳じゃない。その後の、二十歳過ぎからの努力が大切です。それはどういうことかという、本を読むとか、いろいろな人とつきあうとか、それから苦勞するとか、そういう経験を積んで初めて判断力・総合力が伸びるわけです。ですから、皆さんの場合学校の成績がいいと、その人は立派だと思ってもいいけれど、そういうものでもないですから、成績の悪い人は今後がんばって貰いたいし、いい人は安心して貰いたい。

人間の価値

僕は若いときには、非常に成績が悪かった。電機大学に入ったのも補欠ぐらいだったんじゃないかと思う。電機大学で5人目の学長ですが、今までの4人の学長はすべて東京大学から偉い先生がきていました。私は初めての電機大学出身の学長ですけど、そうすると皆さんの中には、私を優秀だなどと思う人もいるかもしれませんが、私は皆さんぐらいのとき、いろいろと悩みがあった。

私は高知県の、中村市からちょっと離れたところの白田川村というところで育ったんです。白田川村は合併されて無くなってしまいました。四万

十川の上流に日吉村という山村があり、ここの出身が今の早稲田大学の奥島総長です。日吉村はいまでも残っているんですが、僕の出た村は合併されてしまったんです。時々奥島先生ともお話ししますが、先生は当時は高等学校に通うのに2時間半かかって、宇和島まで通っていたそうです。僕は自転車で1時間ちょっとの中村高校へ通ったんです。

それで電機大学へ入学した当時、他の人は東京弁でべらべらしゃべって、私は田舎から出てきたので東京弁はしゃべれない、これは本当についていけるかなと心配したんですね。僕の村は住んでる人は400人ぐらいです。ですから、会う人みんな顔知っているんですよ。会えば「こんにちは」と挨拶します。ところが、東京は、電車に乗ってもぎゅうぎゅう詰めで人ばかり。人ばかりでも全然知らない人ばかりだから、僕は人間不信というか、人間の洪水の中で孤独になって、人が人間でなく見えてしまった。そうかといって、知らない人に「こんにちは」なんて話しかけたら、「こいつおかしいな」と思われるだけだから、辛抱してひとりで生きていたんですけど、大学2年生の頃非常に悩みました。井の頭公園の近くに下宿していましたから、夕方になると井の頭公園のベンチに座って1年間考えました。「生きていても仕方ないな」、「もう死んでもいいかな」とも考えました。ただ、僕は次男だったからどんな生き方でもいいんだけど、生きてるだけでも親孝行だなど思いました。いまは、日本では1年間に3万人も自殺者がいますが、当時ぼくは生きてるだけが親孝行だと思いました。

そして1年間井の頭公園のベンチに座って考えた結果、人間はいいところに生まれた立派な人もいるし、頭のいい家系に生まれて良い大学に行く人もいれば、一方生まれながらにして障害を持つ人もいます。そうすると人間の価値というのは、何だろうかと考えました。社会でリーダーになる人が偉いのではないんだと、僕は思ったんですよ。やっぱり、生まれ持ってきた親から与えられた自分をどこまで伸ばすことができるかが、その人の価値だなど僕は考えました。そのとき大学2年生でしたけど、人間を作るには勉強することが大切だと思って、大学の3年から勉強することにしました。さっきも言ったように、人間の脳はやる気を出せばとたんに伸びます。ですから2年まではずっと悪くて、3年で勉強しようと思って、実験

室で学生職員をやりながら夜働いて、帰ってから勉強しました。そしたら3年からぐーっと成績が上がって、4年生ではトップクラスになりましたよ。そして僕のクラスでは大学院にひとりだけ残していただき、現在に至っています。

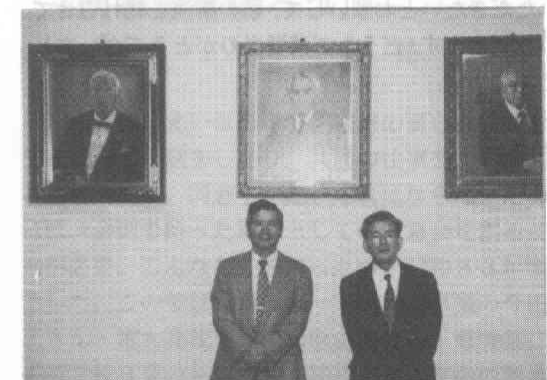
ただそのとき、努力することと、もうひとつ、人々に対する愛情を持たなければいけないと思いました。自分だけ良くなろうとしてもいけないなと考えたんですね。

大学2年のとき非常に感銘を受けた文章に出会いました。ゲーテにファウストという戯曲があるんですが、そのなかにこういう文章があったんです。

「天使たちは今も囁いている
絶えず努力する人たちを
幸せの彼方に運ばなければならない」と

その一句が非常に気に入りました。これは東工大の元学長川上正光先生が書いた専門書の中で、それを読んで感激したんです。

その後、その学長先生に会いたいと思ったんですが、会えなかったんです。現在の東工大の内藤学長とは、僕は30年来のおつきあいで、この間、東工大を訪ねたとき、川上正光先生の肖像の前で写真を撮りました。その時の写真を写真9に示します。



【写真9】川上元学長の肖像の前で東工大内藤学長と

それから、広中平祐先生をご存じですか。現在山口大学の学長で、数学のノーベル賞といわれるフィールズ賞を取った先生です。この間たまたまお会いしていろいろお話ししましたが、今まであの先生はものすごく優秀な人だと思っていました。もちろん世界の数学者のなかで第一人者ですけど、あの

先生は、高校生のとき、広島大学の数学の先生の講演を聴いて、ぜひ広島大学に行きたいと思って、現役で受験したけれど落ち、浪人してまた受けたけど落ちました。ところがどういわけか、京都大学には合格しました。京都大学に行っていたとき、ハーバード大学の教授が来て、その先生とディスカッションして、英語もできなかったけど、ぜひハーバード大学に行かせてくださいとお願いし、ハーバード大学に行ったんですね。その後、先生は、ものすごい努力されるんですね。夜も一週間くらいどこにもでなで、計算した。その理論がすごい理論で、フィールズ賞を貰いました。

ですから、偉くなる人はみんな努力しているんですね。人間の脳というのは誰でもあまり変わらないですから、やる気を出せば非常に伸びてきます。ですから、きょうはたくさん生徒がいますから、学校の成績は上から下まで分布しています。でも、学校の成績は能力の半分くらいしか表していないから、成績の悪い人もやる気をだせば今後道が開かれるし、成績のいい人は自分は偉いんだと思っではダメなんです。やはり謙虚な気持ちで努力することが大切です。

今日は私の専門の話ということで、いろいろな話をさせていただきましたけれど、皆さんは今からまだ60年、70年と長い人生があるわけですから、将来に明るい夢を持ってぜひがんばっていただきたいと思ひます。そして皆さんにぜひ電機大学にきていただきたいとお願いして、私の講演を終わらせていただきます。どうもご清聴ありがとうございました。

(拍手)



昭和33年、電機第一工業学校時代の同窓会会長、柴山茂男氏（左）と須賀さん（右）の合影。

昭和33年、電機第一工業学校時代の同窓会会長、柴山茂男氏（左）と須賀さん（右）の合影。

歴代会長が語る同窓会の思い出

「表紙・朋友の思い出」

柴山茂男

後に高等学校同窓会会報となる「朋友」は昭和60年6月に同窓会創立25周年行事の記念号として発行されました。

どのような経過からか記憶にありませんが、現同窓会役員の石崎さん、須賀さん、そして柴山の3名が編集担当として指名され、石崎さんのプライベート顧問といった形で出版印刷関係の知識を持つ申橋さん(現同窓会役員)の協力を得てスタートとなりました。

真っ先に議論になったのは出版物の性格性質を表す表紙です。「表題」については幹事会で議論していただき「朋友」と決まり当時の高等学校校長吉田宇一先生に書いていただくことになりました。しかし文字だけでは寂しいので卒業生のみなさんが記憶にあり心に響くものを、といった話し合いの中から「若者の像」が浮上しましたがそこで問題が発生しました。ご存知のとおり「若者の像」はブロンズ像です。写真撮影では輪郭が明確に浮き上がり表紙には不向きと考えられました。題材としては最も適しているのに何とかならないものか……と編集担当3名が頭をひねっているうちに「私が河部先生にお願いしてみます。デッサンが残っているかもしれないので」と須賀さんが言い出しました。須賀さんは絵の趣味があり河部先生が退職された後も時々自宅に伺っていたのだそうです。これは渡りに船、早速先生に連絡していただきました。デッサンは残っていなかったものの、朋友25周年特別号の「表紙について」にあるように立派な会誌の顔ができあがりました。

諺に三人寄れば文殊の知恵といいますが本気で取り組む仲間が大切です。同窓会のメンバーとして記念号の作成に参加させていただき本気で取り組むことの大切さと仲間を得ることの喜びを思い

起こしております。

以下は同窓会創立25周年特別号「表紙について」から転載しました。

表題の「朋友」は現高等学校吉田宇一校長の直筆によるもので、同窓会幹事会において鷺見篤氏よりご提言いただいたものです。(中略)

又、表紙の「若者の像」は河部貞夫先生の作で、学園創立60周年記念と合わせ、同窓会で募金したレリーフ基金及び学園、生徒会の援助により制作されたもので、小石川校舎玄関口右手におかれています。このたび本誌のため、この像の写真をもとに当時を思い出し再度デッサンをしていただきました。(以下略)

(注)現在の「朋友」は、年度により新聞形式の発行にもなっております。

「同窓会を創ろう」

鷺見篤

(1) 苦勞の多い世の中で、遠慮の要らない同窓生と会って、話をしたり、共同の仕事をする楽しみは格別です。同窓生が離れ離れにならないためには、会則を持った組織としての同窓会を創ることが必要。こんな考えを持ったのが昭和33年頃でした。この年は、電機第一工業学校卒業の今田正さん・電大高校卒業の川原由夫さん・電機第二工業学校卒業の私が偶然一緒に電大校友会の理事になった年でした。第一工業学校・第二工業学校は、戦後の学制改革で電大高校に移行した学校ですから、三人で話をしているうち、三人は心情的に同じ学校の卒業生になってしまいました。

そして、高等学校とその前身の第一、第二工業学校と、戦後の学制改革で一時あった併設中学校を含めて一つの同窓会を創ろう。その同窓会は校友会の下部組織として認知して頂く。このように

話が纏まりました。

(2) そこで先ず始めに、3名揃って清水先生のお宅を訪問し、同窓会の構想を説明、ご支援をお願い致しました。先生は「いまさら、そんな複雑で難しい同窓会が出来るかな?…」とあまり乗り気ではない様子でしたが、3名が熱心に説明しお願いしましたところ「分かった、とにかく考えておこう」とおっしゃって下さいました。それで、帰ろうと玄関まで来ましたら、先生は「今夜は高円寺の阿波踊りだから、見物してからお帰りなさい」と勧めして下さいました。それで3人は高円寺で下車したのですが、プラットホームでまたもや同窓会作りの話に熱が入り、話しているうちに阿波踊りは終ってしまいました。

(3) 同窓会作りの構想が確定し、会則(案)が出来ましたので、昭和35年1月に、校友会理事長三村操先生宛に、高校同窓会設立のため71,000円の資金援助を書面で願い出しました。また高校の校長池谷武雄先生にも書面で、同窓会設立のためのご指導とご支援をお願い出しました。そして同年2月27日、校友会理事長を継いだ松本豊太郎先生から「資金援助については学校へもお願いし、全額補助する」という趣旨の文書を頂きました。その時の嬉しさと安堵感、現在流に言えば「やったー!」とでも言うのでしょうか。そして資金は校友会の事務局に保管して頂きました。

(4) とにかくその頃は、三人とも多忙を極めていました。働き盛りの年齢だったのですから…。そして川原崎さんは「懸案であった資金援助も実現したので…」と言って同窓会創りから手をひきました。今田さんと私は大層困ったのですが、第一工業昭和23年卒業の青木仁さんが校友会の事務局に勤務していることが分かり、彼を説得して三人仲間が復活、同窓会創りに拍車がかかりました。あの頃の私は、昼間は都立学校の教員、夜は電機大学の大学院生・校友会の理事・子育て・そして同窓会創り。通勤通学は往復4時間。よくやれたものだと思います。そして、同窓会作りに協力して下さった校友会・母校・先生や卒業生の方々の思い出す度に、感謝の念が湧いてまいります。

「会長時代の思い出」

印 宮 登

いま手元に、「回想」高等学校創立40周年誌(同

窓会20周年誌)と「朋友」25周年特別号(同窓会25周年誌)が有ります。どちらも副会長・会長時代の思い出深い記念誌です。昭和52年暮れと記憶しているが、当時の吉田宇一教頭に松下会長と一緒に呼ばれ、「昭和54年に高等学校は創立40周年を迎える。PTAは30周年、同窓会は多少前後するが創立20周年だから合同で記念事業を計画するように。」と言われた。それから紆余曲折はあったものの学校、PTA、同窓会が三位一体となって取り組むことになった。記念募金、式典、講演、祝賀会、記念誌発行を骨子としてスタートしたが、果たして「グランドパレス」のダイヤモンドホールが埋まるのかと心配をしたが、講演者の平岩弓枝氏のネームバリューが効いたのか、講演会、祝賀会とも立錫の余地の無いほどの大盛況であったことは皆様ご承知の通りです。この講演会に端を発し生徒諸君への文化講演会がスタートし現在に営々と引き継がれている。また「回想」をめぐると式辞・祝辞を頂いた先生方に、吉田宇一先生を初め蓮見先生、阪本先生、柴田伊一氏と鬼籍に入られた方が多いことも年月を感じる次第です。

「朋友」25周年特別号は同窓会創立25周年(1/4世紀)を記念し講演会、祝賀会を開催したもので、講演者には是非卒業生からと思いつき当時日本T I社長の石川明さん(昭和31年卒)をお願いすることにし、その人物紹介を兼ねた座談会記事を掲載することになった。当初予算の関係もあり1回だけの発行と考えていたが、校友会のご援助により毎年発行することが可能になり、翌年は「エレクトロニクス先端産業と今後の方向」と題する講演内容を掲載した「朋友」61年版を発行できた。余談になるが石川さんは現在「ボールセミコンダクター」という画期的な新製品開発に取り組まれていられる。

また平成2年の創立30周年には、矢張り卒業生である元日本テレビディレクターで、UFO研究家の矢追純一さん(昭和29年卒)に「宇宙人は実在する!？」と題する講演を頂いた。矢追さんの人気は高く、特に生徒の聴講者が多く実演室も人いきれで冷房が効かぬ程だった。

何れにしてもこれらの記事をまとめてくれるのは、歴代の編集担当者の方々に改めてお礼を申し上げて、会長時代の思い出とさせて頂きたい。

学 校 の 近 況

高等学校教頭 見崎 正行
中学校教頭 槇 将

本年度から高等学校は、今までの普通科・電子電気科・情報科学科の3科を普通科1科に統合し、男女共学としてスタートしました。また、中学校も共学化しました。吉田宇一元校長が朝礼講話で、これから電高を男女共学にして行きたいという話をされたときに、生徒からウオーッという喚声があがったのが今から10年以上も前でした。それから数年後の平成4年小石川キャンパスから小金井キャンパスへ移転し8年目を迎えた本年から工業科を普通科に統合し共学としました。同窓の諸兄に取りましては寂しさもあるかと推察致しますが、学校は新たな目標に向かって飛躍する大切な年となりました。どうぞ今後とも母校の発展にご協力下さいますようお願い致します。

共学化初めての入学式

本年度の入学式は中・高合同で開催しました。理事長はじめ多数の保護者、ご来賓の方々、そして在校生、教職員による歓迎拍手のなか中学1年40名の男女が担任を先頭にアリーナへ入場、続いて中・高一貫生の入場、そして各クラス女子先頭に高校1年生の入場がありました。

高久校長式辞の後、丸山理事長、小谷学長、萩

原校友会副理事長より新入生に祝辞をいただき厳粛な入学式が挙行されました。

入学生の約30%が女子ですが、現在、そのパワーが随所に現れています。



緊張のなかにも喜びが伺える入学式の女子生徒たち

清里教育キャンプ

高校1年生の夏休み、昭和39年から実施し、35年の実績がある清里教育キャンプは、本校の大きな特色となっています。

この学校寮から6m道路を挟んだ敷地内に6棟のログハウスと、炊事場、集会場があります。男女共学化に伴いこの敷地内に周囲の環境とマッチさせた男女別浴室、脱衣室を完備する施設を新築いたしました。学園創立100周年記念事業の計画には厚生施設の統廃合が提案されていますが、清里に集中させたらという意見もあります。中学・高校としては是非とも実現したいものです。



女子生徒がいると和やかに“V”



料理に挑戦する男子生徒たち

TOU武蔵野祭

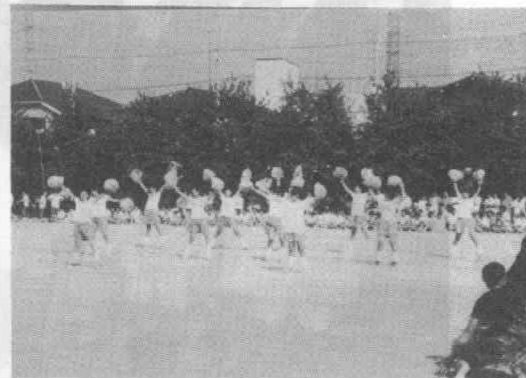
第8回TDO武蔵野祭では、高校1年生全クラス参加の第一回合唱祭がおこなわれました。団体の部金賞は1年6組が獲得しました。また個人の部指揮者、伴奏者、特別賞などをそれぞれ贈呈しました。また、例年同窓会と校友会共催の優秀作品部門では、物理同好会、1年普通科8組の“喫茶マ・シェリ”そして中学1年B組の“僕らの研究”が選ばれました。各クラス参加で協力し苦労した結果は今後の学校生活に生かせることと思います。また飲食を扱う部門が目立ち、例年になく活気あふれた雰囲気でした。合唱コンクール、喫茶マ・シェリなど共学に相応しい内容であった。PTA学年委員会を中心としたバザーの売り上げにつきましては、教育活動の充実のため活用させて頂いています。



記念すべき第一回の合唱祭

体育祭

共学となって、最初の体育祭が当初予定を延期し10月初旬の土曜日になりました。女子による新種目などが増え、保護者席も大変な賑わいがありました。とりわけ高校1年女子による各クラス対抗の“Let's Dance”は久しぶりに盛り上がった体育祭でした。最優秀部門は1年5組の[WAKAMONO]でした。



最高に盛り上がった高校女子1年生による“Let's Dance”



かけ声も勇ましく男女混成による綱引き



中学男子生徒による“棒倒し”

理工学部の新学科開設

高校3年生を対象にした理工学部の学科説明会が、5月下旬理工学部において行われました。“21世紀に生きる、新しい技術者を育成する”新学科(情報社会学科と生命工学科)が2000年4月開設予定で準備がすすめられており、学科別説明会には、多数の生徒、保護者が参加しました。また、2001年には千葉NTキャンパスに新学部(情報環境学部)が開設される予定です。

コンピュータ教室のリプレイス

3教室のコンピュータシステムを2学期からの授業に間に合わせるため夏休みを利用しリプレイス致しました。生徒機132式、先生機3式、サーバー機3式、その他モノクロレーザープリンタ21式、カラーレーザープリンター3式や画像転送装置などです。また、各教室には必要に応じたアプリケーションがインストールされています。生徒は快適な環境のもと授業に取り組んでいます。小金井サテライトセンターは、従来の教学システムをダウンサイジングし、PCサーバーを

主体としたクライアントサーバーシステムへ移行しました。

中学校より

平成8年に併設された中学校は、中学・高校・大学・大学院へつながる。中高一貫教育を実践する学校としてスタートいたしました。

今年の3月には一期生55名が卒業し、54名の生徒が内部進学をいたしました。また、4月には高校と同様に共学化され、12名の女子生徒を含む40名の新入生を迎え、全校生178名の生徒が充実した学校生活を送っております。中学校は「人間らしく生きる」を校訓として少人数による、きめ細かな学習指導、豊かな心を育む生活指導を特色とした教育を実践しております。

中学校は、高校と異なり、歴史の浅い学校ですが、在校生の保護者、受験生や、その父母、塾等の関係者の方々から多くのご理解を得られ、少子化の時代の中で、毎年多くの受験生を集め、中学校としての評価を高めております。しかし一方では、定員が40名であるために、受験しにくい事を指摘されておりましたが、平成12年度から定員が80名に増員されることになり、この問題が改善されることになりました。現在は応募者の増加対策として活発な広報活動を展開しております。

最近では、在校生の弟や妹、同窓生のご子息が受験するケースが増加しております。これは中高一貫教育に対して皆様から多くの期待が寄せられていることであると判断しております。定員増を機会に、期待に添えられるように、教職員一同が更に努力してまいりたいと思っております。

同窓生の皆様には、今後ともに中学・高校の発展のためにご協力をお願いいたします。



情報教育や先生・生徒間のコミュニケーションに大いに役立った“高尾山遠足”(中学1・2年生)

母校と同窓会の歩み

年 月	学 園	同 窓 会
1907(明治40)年 9月	広田・扇本両先生によって高等学校の母体である電機学校創設	
1923(大正12)年 9月	関東大震災により木造校舎焼失	
1924(大正13)年12月	電機学校私設無線電信電話局 JMYM 認可される。NHK 東京放送局に先駆け送受信を行っていた。	
1928(昭和 3)年11月	NE 式写真電送成功	
1936(昭和11)年 2月	(2・26 事件発生)	
1939(昭和14)年 4月	実業学校令による東京電機工業学校(高等学校の前進)を併設。昼間部・夜間部の課程を置く。	
1939(昭和14)年 9月	(第2次世界(欧州)大戦勃発)	
1941(昭和16)年12月	(太平洋戦争勃発)	
1944(昭和19)年 4月	校名を電機第一工業学校と改称別に電機第二工業学校を設置。	
1945(昭和20)年 8月	(広島・長崎に原爆投下、戦争終結)	
1948(昭和23)年 4月	学校改革により電機第一、同第二工業学校が合体して、電機学園高等学校となる。普通科新設	
1949(昭和24)年 3月	電機第一・二工業学校廃止	
1952(昭和27)年 5月	電検認定制度が変更され、本校が第一次試験免除校に認定。	
1956(昭和31)年 2月	校名を東京電機大学高等学校と改称	
1957(昭和32)年 4月	文部省産業教育研究校に認定。	
1957(昭和32)年11月	創立50周年記念式典を東京体育館にて挙る。	
1957(昭和32)年12月	(一万円札発行)	
1958(昭和33)年10月	文部省産業教育指定校として、研究発表会を挙る。	
1958(昭和33)年11月	丹羽保次郎学長、文化勲章受賞	
1959(昭和34)年 1月		高校同窓会設立の援助を校友会・および母校に願ひ出る。
1959(昭和34)年 2月		母校より同窓会設立準備金として76,700円下賜される。
1959(昭和34)年 3月		設立発起人会を開催
1959(昭和34)年 4月		創立総会を本館5階講堂で開催。校友会から高校同窓会設立を承認される。

年 月	学 園	同 窓 会
1962(昭和37)年 3月	文京区後楽に高校校舎建設計画決定	勤務地区別同窓会名簿を発行する。
1963(昭和38)年 3月	高等学校の教育課程改定に伴い機械科、電子科、電気科、と改定する。	初めて校友会経由で入会金が同窓会に入る。
1964(昭和39)年 3月		総会でレリーフ基金募金開始を決定、募金活動を開始する。
1964(昭和39)年 6月	山梨県八ヶ岳山麓に清里寮竣工。	
1964(昭和39)年10月	(オリンピック東京大会開催)	
1964(昭和39)年11月		千代田地区同窓会、中央地区同窓会発足。
1965(昭和40)年 4月	文京区後楽に高等学校校舎ならびに体育館竣工、新校舎で授業開始。	
1965(昭和40)年 6月		小石川新校舎で初の総会開催。
1966(昭和41)年 4月		第1回の全卒者名簿の発行に協力。
1968(昭和43)年		勤務地区別同窓会名簿を改定発行。レリーフ基金をもとに“若者の像”製作。
1969(昭和44)年 3月	工業計測科廃止	
1970(昭和45)年 3月	(日本万国博覧会開幕)	
1973(昭和48)年 5月		総会を兼ねて、湯島会館にて同窓30周年記念、歴代校長を囲む会を開催。
1974(昭和49)年 4月		第1回クラス委員名簿(住所録付き)を発行。
1974(昭和49)年 7月		本年度より同窓会の新しい事業として、電機大学へ進学した新会員を対象とした、英語、数学の実力向上のため会員講習会を開催。
1975(昭和50)年 7月		第2回の全卒者名簿の発行に協力。
1977(昭和52)年 6月	大学理工学部開設と学園創立70周年記念式典を鳩山校舎にて挙る。	
1978(昭和53)年 6月		本年度の総会で53・54年度の同窓会の事業として、創立40周年記念事業を推進することを決議。
1979(昭和54)年 6月	高等学校創立40周年記念式典を『グラウンドパレス』にて挙る。	同窓会創立20周年記念と総会を『グラウンドパレス』にて挙る。
	東京私立中学・高等学校協会第四支部の支部長校となる。(任期1年)	高等学校創立40周年記念式典と記念事業に協力。
1982(昭和57)年 6月		総会後第一工業・第二工業の卒業生を招待、小石川体育館で懇親会開催。
		第3回全卒者名簿発刊に協力。

年 月	学 園	学 同 窓 会
1982(昭和57)年11月	学園創立75周年記念式典を『東京プリンスホテル』にて挙行。	
1982(昭和57)年12月	小石川校舎増築工事起工式。	
1983(昭和58)年 6月		総会後池谷元校長より「絵についての思い出」講演、懇親会場にも展示
1983(昭和58)年 8月	小石川校舎3号館竣工式。	
1984(昭和59)年 6月		総会後清水元校長「小石川移転の思い出」を講演、懇親会場に佐藤吉弥先生の絵を展示。
1984(昭和59)年 7月	機械科の募集、昭和60年より募集停止。	
1984(昭和59)年10月		同窓会25周年記念事業委員会で同窓会小冊子の発行を目的に編集小委員会を発足。
1985(昭和60)年 2月	機械科を電子機械科に改編。	
1985(昭和60)年 3月	(科学万博(つくば'85)開幕)	
1985(昭和60)年 6月		「エレクトロニクス先端産業と今後の動向」についてS31卒石川明氏、小石川体育館にて講演。
1985(昭和60)年10月		“朋友”25周年特別号を発行。
1986(昭和61)年 4月		“朋友”を同窓会会報として継続発行することとなり、創刊号発行。
1986(昭和61)年11月	(伊豆大島、三原山206年ぶり大噴火)	第1回卒業生招待会(S17~S30迄)を開催。母校からの招待者240名出席。
1987(昭和62)年11月		電高祭で「優秀賞」の表彰。 第2回卒業生招待会を後楽園会館で開催(S31~S40年卒)
1988(昭和63)年 3月	(世界最長、青函トンネル開業)	第3回卒業生招待会を小石川校舎体育館で開催(S41~S46年卒)
1989(平成元)年 5月	アイオワ大学工学部と推薦入学に関する協定書調印	
1989(平成元)年11月	(ドイツ、ベルリンの壁崩壊)	高等学校50周年、第4回卒業生招待会(全卒業者)日中友好会館で開催。
1990(平成2)年 4月	工業科を電子電気科、情報科学科に改編	
1990(平成2)年 9月	小金井校舎地鎮祭実施	
1990(平成2)年11月		同窓会創立30周年記念講演を卒業生矢追純一氏(元日本テレビディレクター)「宇宙人は実在する!？」を講演。

年 月	学 園	学 同 窓 会
1991(平成3)年 1月	(湾岸戦争勃発、ソ連邦消滅宣言) 小金井校舎建設資金募集開始、目標金額5億円、期間H3.1.1~H5.12.31	
1992(平成4)年 3月	小金井キャンパスに高等学校舎竣工	
1992(平成4)年 4月	文京区小石川校舎から小金井校舎に移転。新校舎にて授業開始。	
1992(平成4)年 6月		小金井新校舎で初めて総会を開催。
1992(平成4)年 9月	電高祭からTDU武蔵野祭改称	
1992(平成4)年10月	電気科、電子科、電子機械科を廃止 電機学校廃止。	
1994(平成6)年11月		同窓会機関紙“朋友”をタブロイド版の新聞形式で編集、送付決定。
1994(平成6)年12月	東京電機大学中学校文部省に申請。	
1995(平成7)年 1月	(阪神・淡路大震災)	
1995(平成7)年 3月	(オウム真理教による地下鉄サリン事件)	
1995(平成7)年 7月		同窓会35周年記念講演として、元巨人軍打撃コーチ中畑清氏講演。
1996(平成8)年 4月	東京電機大学中学校入学式	
1996(平成8)年 5月	東京電機大学中学校開設披露式挙行	
1996(平成8)年 6月		第10回卒業生招待会開催(高校小ホール)
1996(平成8)年 7月		第3回全卒業者名簿の発行に協力。
1996(平成8)年11月		新聞形式の“朋友”を従来の冊子形式とし、中畑清氏の講演を掲載。
1997(平成9)年 7月	文部省、大学へ「飛び入学」を可能とする省令改正を公布、即日施行	
1997(平成9)年 9月	学園創立90周年記念式典を『東京国際フォーラム』にて挙行。日本人初の宇宙飛行士『秋山氏』が同会場にて記念講演。	
1998(平成10)年 6月		中学・高等学校同窓会会則に改定。
1998(平成10)年 8月		第1回3同窓会(電機学校・高校・大学)の会長、副会長合同懇親会を上野「風月堂」にて開催。
1999(平成11)年 4月	中学・高等学校男女共学となる。	
1999(平成11)年 6月	創立60周年記念式典を高校小ホールで開催。体育館で東京電機大学学長小谷誠氏「超電導の世界」を講演後、祝賀会を吉祥寺第一ホテルにて挙行。	創立40周年記念総会を高校会議室で開催後、同窓会創立40周年記念の祝賀会を吉祥寺第一ホテルにて挙行。
1999(平成11)年 8月		第2回3同窓会の会長、副会長合同懇親会を上野「風月堂」で開催。

歴代の校長

波多 諄三先生	東京電機工業学校校長	昭和14年 4月～昭和19年 3月
	電機第一工業学校校長	昭和19年 4月～昭和21年11月
具志堅実成先生	電機第二工業学校校長	昭和19年 4月～昭和21年 4月
池谷 武雄先生	電機第二工業学校校長	昭和21年 4月～昭和24年 3月
	電機学園高等学校校長	昭和23年 4月～昭和24年 3月
	東京電機大学高等学校校長	昭和31年 5月～昭和35年 3月
橋本健之助先生	電機第一工業学校校長	昭和21年11月～昭和24年 3月
	電機学園高等学校校長	昭和24年 4月～昭和28年 3月
宇野 幸一先生	電機学園高等学校校長	昭和28年 4月～昭和31年 1月
	東京電機大学高等学校校長	昭和31年 2月～昭和31年 4月
清水 明先生	東京電機大学高等学校校長	昭和35年 4月～昭和41年 3月
望月 直文先生	東京電機大学高等学校校長	昭和41年 4月～昭和46年 4月
大原 儀作先生	東京電機大学高等学校校長	昭和46年 5月～昭和49年 3月
池田 市寿先生	東京電機大学高等学校校長	昭和49年 4月～昭和53年 3月
吉田 宇一先生	東京電機大学高等学校校長	昭和53年 4月～昭和63年 3月
宮崎 登先生	東京電機大学高等学校校長	昭和63年 4月～平成 6年 3月
松岡 三夫先生	東京電機大学高等学校校長	平成 6年 4月～平成 9年 3月
高久 廣毅先生	東京電機大学高等学校校長	平成 9年 4月～

歴代の同窓会長

初代 幹事長	今田 正	昭和35年 5月～昭和37年11月
2代目幹事長	鷺見 篤	昭和35年 5月～昭和37年11月
3代目幹事長	青木 仁	昭和41年 4月～昭和41年 月
4代目幹事長	小竹 四郎	昭和46年 月～昭和47年 7月
5代目幹事長	柴山 茂男	昭和47年 7月～昭和51年 月
6代目幹事長(会長)	松下 裕輔	昭和51年 月～昭和58年 5月
7代目会長	印宮 登	昭和58年 6月～平成 2年 5月
8代会長	大塚 忠克	平成 2年 6月～平成 8年 5月
9代会長	萩原 宏芳	平成 8年 6月～

学校・学科・年次別卒業者数一覧

卒業年次	電機第一工業学校				電機第二工業学校				小計		合計
	第1本科		第2本科	併設	第1本科		第2本科	併設	電機第一工業学校	電機第二工業学校	
	電気科	機械科	電気科	中学	電気科	機械科	機械科	中学			
E	M	E	J	E	M	M	J				
S 17			91						91		91
18	51		85						136		136
19											
20	101		91						192		192
21	58		48						106		106
22			100		133	50			100	183	283
23	53		106	161	78	26	8	243	320	355	675
24	116	26	65	359	190	49			566	239	805
合計	379	26	586	520	401	125	8	243	1,511	777	2,288

卒業年次	全日制					定時制					小計		合計					
	電気科					電気科	機械科	電気科			全日制	定時制						
	電力課程		電気機器課程		電気通信課程			電力課程	電気機器課程	電気通信課程								
E ₁	E ₂	E ₃	E ₄	M ₁	M ₂	C ₁	C ₂	I	E	M	E ₁	E ₂	M	C				
S 24									94	10					104	104		
25	54	52			64		39					42	44		209	86	295	
26	48	48	51	48	51		45					49	47	27	60	291	183	474
27	51	50	57		46	43	53					40	46	50	37	293	173	466
28	56	57			51		50					53		38	64	214	155	369
29	48	37			62		55	30				47		40	39	232	126	358
30	55	53			36	44	54	38				55		30	40	280	125	405
31	55	49			59		58	56	33			50		28	57	310	135	445
32	52	54			49		59	60	38			72		41	51	312	164	476
33	56	59			55		63	63	48			55		36	64	344	155	499
34	61	66			62		51	54	60			49		41	44	354	134	488
35	56	59			52		60	65	56			59		48	54	348	161	509
36	63				55		61	60	52			67		50	60	291	177	468
37	62				64		61	64	66			73		65	65	317	203	520
38	58	61			67		63		59			70		57	59	308	186	494
39	60				49		56	53	54			62		53	55	272	170	442
40	65				65		63	67	57			51		33	58	317	142	459
41												47	47		52		146	146
合計	1,694				974		1,433		591	94	10	1,125		637	859	4,692	2,725	7,417

卒業 年次	全 日 制									定 時 制			小 計		合 計	
	電 氣 科			電 子 科		機 械 科		工 業 計 測 科	電 子 機 械 科	電 氣 科		電 子 科	全 日 制	定 時 制		
	E ₁	E ₂	E ₃	D ₁	D ₂	M ₁	M ₂	I	M	E ₁	E ₂	D				
S 41	68	66		68	69	54		62					387		387	
42	54	56	50	64	59	52		56		42	39	47	391	128	519	
43	54	54		58	54	54		55		46	41	37	329	124	453	
44	60	64	28	67	64	68		28		64	22	42	379	128	507	
45	61	60		51	55	48	49			47		21	324	68	392	
46	66	63		61	64	55	55			47		20	364	67	431	
47	56	55		58	59	58	59						345		345	
48	50	51		52	52	53	53						311		311	
49	56	57		51	51	52	49						316		316	
50	55	52		61	63	49							280		280	
51	52	50		43	50	48							243		243	
52	59	59		58	56	50							282		282	
53	60	56		59	66	56							297		297	
54	51	55		49	51	52							258		258	
55	50	47		56	55	43							251		251	
56	49	50		49	51	51							250		250	
57	54	54		57	55	48							268		268	
58	50	47		51	54	53							255		255	
59	51	53		54	51	50							259		259	
60	50	50		43	43	50							236		236	
61	54	52		50	53	54							263		263	
62	49	52		54	51	46							252		252	
63	49	49		47	48							53	246		246	
H 1	54	52		51	51							50	258		258	
2	52	51		49	53							53	258		258	
3	45	49		51	51							54	250		250	
4	51	52		51	53							53	260		260	
合 計	2,994			2,945			1,409		201	263	348		167	7,812	515	8,327

卒業 年次	全 日 制					合 計	卒業 年次	全 日 制					合 計
	電 子 科			情 報 科 学 科				電 子 科			情 報 科 学 科		
	電 氣 科	D ₁	D ₂	D ₃	C ₁			C ₂	電 氣 科	D ₁	D ₂	D ₃	
H 5	44	43	44	46	44	221	H 9	46	48		46	43	183
6	42	39	42	42	41	206	10	44	42		43	43	172
7	40	43	43	37	41	204	11	42	39		40	42	163
8	40	39	39	41	44	203	合 計	759			593		1352
合 計	498			336		834							

卒業 年次	全 日 制					合 計
	普 通 科					
	L ₁	L ₂	L ₃	L ₄	L ₅	
S 27	37					37
28	30					30
29	39					39
30	47					47
31	58					58
32	42					42
33	50					50
34	50					50
35	60	55				115
36	55	54				109
37	55	53				108
38	51	55				106
39	59	56				115
40	63	64	60			187
41	63	64	63	65		255
42	60	63	64	62		249
43	58	56	58	58		230
44	60	53	53	51		217
45	55	57	57	57		226
46	54	51	54	57	54	270
47	49	49	50	49		197
48	54	54	54	53		215
49	52	52	55	48		207
50	51	50	51	51	50	253
51	53	53	54	52	42	254
52	52	54	53	51	52	262
53	52	51	53	52	52	260
54	55	55	56	56	49	271
55	54	53	55	54	50	266
56	47	49	49	49	47	241
57	53	51	54	52	48	258
58	51	50	51	51	52	255
59	51	50	49	50	51	251
60	47	46	46	45	43	227

卒業 年次	全 日 制							合 計
	普 通 科							
	L ₁	L ₂	L ₃	L ₄	L ₅	L ₆	L ₇	
S 61	46	47	45	47	47	46		278
62	54	53	54	54	52			267
63	47	46	47	47	47	48		282
H 1	28	47	46	47	46	47		261
2	30	49	49	47	47	47	25	295
3	26	49	49	49	45	45		267
4	24	43	41	43	41	41	L ₇₋₈ 40	273
5	L ₁₋₇ 22	40	39	39	42	41		223
6	L ₁₋₈ 16	43	42	42	43	L ₆₋₇ 40		226
7	L ₁₋₈ 27	40	39	39	40	L ₆₋₇ 39		224
8	23	45	45	45	44	L ₆₋₇ 40		242
9	29	32	33	41	37	L ₆₋₇ 46		218
10	22	44	44	44	46	27		227
11	36	42	43	43	31			195
合 計	2,175	2,017	1,755	1,690	1,203	507	65	9,435

卒業 年次	中 学 校			合 計
	A	B	C	
H 11	28	27		55
合 計	28	27		55

学校・学科・卒業年次別担任・クラス委員一覧

高等学校は学制改革による、校名改称や学科改編等により、複雑なクラスわけとなっております。

現在493のクラスがありますが、今回クラス委員承諾書を返送いただいた方のみ、委員として掲載させていただきました。空欄になっているクラスで、実際に活動されているクラス委員のかたのご一報をお待ちしております。

また、クラス委員の決定していないクラスの皆様は是非この機会にクラス委員を決定していただけるよう御協力をお願い致します。

なお、昭和57年より高等学校同窓会会則改訂により1クラス、2名のクラス委員となりました。クラス委員は、各クラスの代表としてクラスと高校同窓会・校友会・高等学校とのパイプ役をお願いしております。委員の方には大きな負担をおかけしていますが、委員の同窓会活動は大変重要です。会員の皆様方も御協力をよろしくお願い致します。

【凡例】

18	清水 明	・上段 クラス担任
	豊田 健造	・下段 クラス委員

卒業年次	電機第一工業学校				電機第二工業学校			
	第1本科		第2本科	併設中学	第1本科		第2本科	併設中学
	電気科	機械科	電気科		電気科	機械科	機械科	
E	M	E	J	E	M	M	J	
S 17			稲垣 忠雄					
			佐々嶋長治					
18	堤 良富		清水 明					
	渡辺 和正		豊田 健造					
19								
20	清水 明		清水 明					
	高野 新吉		池ヶ谷道夫					
21	清野 明夫		作道 兵次					
	倉持 悦久		白石 哲					
22			服部 三郎			加藤 高治		
			粟屋 昭					
23	清水 明		吉田 宇一		磯部 直吉	早川 喜知	伊藤 克己	
					原口 喜八			
					深海登世司			
	青木 仁				金森			
					荒井 茂	清水 清		
24	清水 明	首藤 富家	吉田 宇一		原口 喜八	首藤 富家		

卒業年次	定 時 制					
	電気科	機械科	電 気 科			
			電 力 課 程		電 気 機 器 課 程	電 気 通 信 課 程
E	M	E ₁	E ₂	M	C	
S 24	吉田 宇一	伊藤 克己				
	小竹 四郎					
25			服部 三郎	吉田 宇一		
26			鈴木 徳三	鈴木 徳三	伊藤 克己	原口 喜八
			荒井美喜男		小沢 位	天野 勇
27			横田良次郎	鈴木 徳三	伊藤 克己	原口 喜八
						小林 健雄
28			河辺 貞夫		首藤 富家	森田 恒久
			佐藤 守弘			
29			鈴木 徳三		首藤 富家	角田 秀夫
					北風 康夫	森 真
30			河辺 貞夫		横田良次郎	板垣 光夫
			宮田 利一		松本 和夫	菅谷 敬弘
31			小針 藤男		首藤 富家	角田 秀夫
32			河辺 貞夫		大渡 正治	板垣 光夫
			茂木 実			
33			小針 藤男		大渡 正治	角田 秀夫
			亀山 孝		与儀 正久	
34			角川 一治		小針 藤男	中島 輝夫
						権津 利雄
35			角川 一治		大渡 正治	中島 輝夫
						池田 恒男
36			桜井 松治		横田良次郎	中島 輝夫
			野村 力男			富山 晃宏
37			杉野 良知		桜井 松治	横田良次郎
			石崎 泰司		北川清太郎	宮城 一治
38			杉野 良知		下崎 和彦	大江 康男
						中山 勇次
39					吉田 宇一	白川 守昭
					松枝 速雄	坂本 寛
40					吉田 宇一	下崎 和彦
						松岡 三夫
41					見崎 正行	則友 克敏
					小室 泰之	矢部 好雄
						長谷川裕一
						小杉 善美

卒業年次	定 時 制		
	電 気 科		電 子 科
	E ₁	E ₂	D
S 42	横 将	山崎 修快	鈴木 治郎
43	高久 広毅	人見 芳行	鈴木 治郎
	加賀 勉	厚谷 豊	井筒 幸二
44	人見 芳行		鈴木 治郎
	大石 四郎		小林 幸男
45	鈴木 治郎		鈴木 治郎
	金子 英司		
46	鈴木 治郎		鈴木 治郎
			石川 秋男

卒業 年次	全 日 制								
	電 氣 科			電 子 科			機 械 科		
	電 力 課 程			電 氣 機 器 課 程			電 氣 通 信 課 程		
	E ₁	E ₂	E ₃	E ₄	M ₁	M ₂	C ₁	C ₂	I
S 25	高橋 減八	岩佐 徹			首藤 富家		角田 秀夫		
					服部 俠美		森山 満隆		
26	野口 茂	大江 康男	吉田 宇一	加藤 高治	佐藤 善慶		中島 輝夫		
	加藤 正樹			中島 政良					
27	平野 三郎	大渡 正治	林 六郎		中沢(齊藤) 実	板垣 光夫	桜井 松治		
		岩田 慶一			今井 昇		野瀬 健一		
28	野口 茂	角田 秀夫			桜井悌二郎		鈴木 藤男		
		青木 良造					渡辺 正司		
29	小西 吉孝	佐藤 善慶			中沢(齊藤) 実		中島 輝夫		伊藤 克己
	川田 保夫								尾島 崇弘
30	林 六郎	神庭 明			大渡 正治	吉田 宇一	桜井 松治		大江 康男
		石塚 武夫			小野 栄一		柴山 茂男		守屋 正
31	杉野 良知	野口 茂			鈴木 徳三		吉田 孝俊	伏見栄治郎	伊藤 克己
	原口 尚久						森 健輔	坂井 孝志	小長谷 登
32	角川 一治	桜井悦二郎			中沢(齊藤) 実		中島 輝夫	寺尾 功吉	佐藤 善慶
	倉林 純一				吉川 洋		増田 克己	柳 博	
33	板垣 光夫	渡辺 明			吉田 宇一		桜井 松治	横田良治郎	大江 康男
	飛田 偉靖	関 博			後藤 隆夫				
34	杉野 良知	鈴木 徳三			中沢(齊藤) 実		野口 茂	吉田 孝俊	伊藤 克己
	平岡 義宏				松下 祐輔			仲野 成憲	中野 善夫
35	佐藤 吉弥	吉田 宇一			鈴木 治郎		角田 秀夫	佐藤 善慶	大江 康男
	北村 義明	名古屋 勲			鈴木 整司				渡辺 黎一
36	板垣 光夫				小針 藤男		佐藤 善慶	白井光太郎	伊藤 克己
									藤田 安彦
37	野口 茂				齋藤 広吉		大渡 正治	角田 秀夫	石川 孝志
	荒井 義久						柳田 佳孝	横溝 邦彦	
38	大田 健	吉田 宇一			横山 実		鈴木 治郎		伊藤 克己
	形屋 憲一	佐藤洋志郎			石川 邦雄		細田 勝久		鶴見 勝義
39	中島 輝夫				小針 藤男		高木 政夫	白井光太郎	渡辺 太
								三橋 慶二	渡辺 正行
40	中村 広幸				齋藤 広吉		桜井 松治	菊地 諒	伊藤 克己
								川村登志一	倉本 馨

卒業 年次	全 日 制								
	電 氣 科			電 子 科		機 械 科		工 業 計 測 科	
	E ₁	E ₂	E ₃	D ₁	D ₂	M ₁	M ₂	I	
S 41	大田 健	大田 健		角田 秀夫	鈴木 治郎	横山 実		中田 勇	
	石附 正				印宮 登	柴田 耕 渡辺 高幸 伊藤 克己			
42	松岡 三夫	加藤 栄治	宮崎 登	白井光太郎	川島 純一			大江 康男	
	原 邦男		畑山 昭一	平賀 徹					
43	齋藤 成信	中村 広幸		板井 松治	菊地 諒	齋藤 広吉		渡辺 太	
		和田 真一							
44	中村 隆一	中田 勇		高村 広昭	見崎 正行	横山 実		大江 康男	
	赤川富美樹	山越 茂雄		花嶋 秀年		岡田 和恭		由井 康雄	
45	宮崎 登	加藤 栄治		白井光太郎	川島 純一	松岡 三夫	横山 実		
		岡本 清次		松村 雅之	小川 晴夫	小野 善之	鳥飼 洋一		
46	大田 健	中村 広幸		白井光太郎	高村 広昭	石川 孝志	伊藤 克己		
	川本 敏	秋山 清隆		石橋 和夫		田畑 有三			
47	鈴木 治郎	渡辺 太		見崎 正行	中村 隆一	大江 康男	山田 宏明		
	大橋富士人	山田 宏己		早坂 幸雄	持木 文男	谷田部 宏	船田 嘉章		
48	宮崎 登	加藤 栄治		松岡 三夫	川島 純一	大湯 幸夫	横山 実		
	山内 俊夫	尾身 栄一		白野 一武	渡辺 敏章	林 達也	大羽 克己		
49	間辺幸三郎	高橋 源八		白井光太郎	大谷 稔	高村 広昭	中村 広幸		
		山口 孝博		高橋 康一	岡田 孝治		石塚 仁史		
50	高橋 源八	中村 隆一		見崎 正行	前嶋 万人	大湯 幸夫			
	高瀬 裕司			大谷 茂	佐藤 仁	高瀬 勝義			
51	宮崎 登	鈴木 博		五十木基晴	大江 康男	横山 実			
	平井 広史	神田 庄一		柳川 守	吉田 邦男	池田 邦明			
52	間辺幸三郎	高村 広昭		菊地 諒	大谷 稔	横 将			
		大塚 徹		村上 裕一	前嶋 宏二				
53	鈴木 博	中村 隆一		見崎 正行	宮本 治	大湯 幸夫			
	後野 明仁			秋山 益満	清水 敏久	本間 昭伸			
54	宮崎 登	田上 光治		前嶋 万人	大谷 稔	横山 実			
	箱田 浩二	吉田 俊司		三輪 浩康	山際 康之	平澤 輝男			
55	松岡 三夫 石井 和之 藤原 俊行	津村 栄一 手塚 勝		菊地 諒	高村 広昭	横 将			
	鈴木 博	中村 隆一		見崎 正行	林 幸男	横山 実			
56	鈴木 幸治	山崎 育昭		鈴木 昭広	新谷要治郎	横山 秀樹			
	齋藤 広吉	則友 克敏		前嶋 万人	生熊 勝彦	山田 宏明			
57				平沢 一寿	今尾 裕	早坂 勝浩			
	鈴木 治郎	津村 栄一		見崎 正行	人見 芳行	山路 雅一			
58		木村 武晴		山本 誠人		江部 智治			
	鈴木 博	高村 広昭		向芝 京太	石川 孝志	横山 実			
59	浅田 直樹 佐藤 和幸 齋藤 幸太	龜岡 和裕 星野 雅幸 大田 健		大曾根康史 松田 和哉 渡辺 太	土屋 岳 前嶋 万人	鈴木 久郎 鈴木 正成 小峯 龍男			
	深見 孝一 青沼 孝 津村 栄一	宮崎 佳之 鈴木 治郎		石井 俊一 見崎 正行	染野 明 笠木 孝夫 生熊 勝彦	猪鼻 一芳 岩崎 道義 宮本 治			
61	中村 登 幸保 信司 齋藤 広吉	坂井 光利 龜田 秀明 渡辺 太		鳴島 浩 増嘉 太郎 中村 隆一	大和田 誠 山下 慎一 妹尾 敬	新井 智也 山岸 岳人 大湯 幸夫			
	石田 亮 近藤 大輔	館澤 直紀 木村 宏		豊島 徹朗 田中 篤史	吉島 大 児玉 泰輝	村井 潤 山本 克郎			
62									

卒業 年次	全 日 制				
	電 気 科		電 子 科		電子機械科
	E ₁	E ₂	D ₁	D ₂	M
S 63	大田 健	川口 純	前嶋 万人	五十木基晴	小峯 龍男
	村田 周也 藤本 賢司	石田 晋也 石山 隆	星野 信幸 田口 明洋	川勝 真喜 永木 康弘	佐藤 秀明 柳澤 恵行
H 1	中田 勇	津村 栄一	見崎 正行	内山 章夫	古城 仁
	桜井 寿弥 清田 昌紀	西野 栄一 渡辺 浩成	池田 靖規 関根 康史	清水 憲一 矢澤 哲弘	白川 憲悟
2	鈴木 治郎	妹尾 敬	中村 隆一	上前 隆雄	大久保 靖
	戸塚 敏朗 佐々木武志	草野 健一 高木 道夫	網藤 智	中島 浩一 徳田 信康	玉手 秀典 野見 貞行
3	大田 健	河野 吉伸	見崎 正行	深谷 哲弘	小峯 龍男
	甘利 友朗 佐藤 淳	落合 崇 高橋 好晴	前田 隆 松本 信寛	村社 敏夫 渡辺 永寿	石沢 岳彦 久保田恭弘
4	中田 勇	深川 紘司	内山 章夫	林 幸男	石松栄一郎
	石井 英二 澤 雅祐	藤川 雅治 梅沢 康剛	立脇 竜 谷 伸彦	岡山 進一 両角 祐樹	中村 一 道 康輔

卒業 年次	全 日 制				
	電 子 電 気 科			情 報 科 学 科	
	D ₁	D ₂	D ₃	C ₁	C ₂
H 5	津村 栄一	上前 隆雄	平川 吉治	中村 隆一	八百屋 尚志
	中島 功 根本 雅範	田島 孝洋 青木 圭樹	片山 誠司 枳丸 弘樹	田島 真 平野 文崇	照井 博志 高橋 洋一
6	見崎 正行	河野 吉伸	五十木基晴	小峯 龍男	渡邊 盾夫
	福田 貴之 中山 竜一	石井 淳 原田 洋介	玉井 貴司 西田 哲郎	市川 大輔 遠藤 好鏡	梅原 誠之助 小 家
7	前嶋 万人	平山 桂樹	内山 章夫	深谷 哲弘	生熊 勝彦
	稲垣 裕介 加藤 貴仁	西部 洋晴 林 大樹	柴田 亨 山本 和裕	岩本 雅輝 田原 裕之	飯塚 洋平 小池 伸之
8	津村 栄一	大久保 靖	今福浩太郎	林 幸男	山内 雄司
	齋田 清隆 吉澤 博之	榎本 裕文 森田 圭一	恩田 拓 武田 知之	坂元 淳一 横田 聡	高橋 和義 宮田 悠輔
9	河野 吉伸	山崎 武光		小峯 龍男	鈴木 純
	相原 浩明 小村 亮太	鈴木 勝博 千野 一夫		佐藤 大典 吉川 満晴	森田 雅彦 松澤 雄生
10	前嶋 万人	陰山 稔		大湯 幸夫	深谷 哲弘
	越井 裕之 増田 隆裕	渡邊 芳弘 千野 雅史		稲光 隆史 庄司 寿一	佐藤 岳人 熊田 章央
11	津村 栄一	渡邊 盾夫		林 幸男	山住 直政
	大澤 青吾 柴田 雅哉	石田 雅也 藤井 毅		岡野 勝也 河村 洋行	篠原 昌司 吉田 好児

卒業 年次	全 日 制				
	普 通 科				
	L ₁	L ₂	L ₃	L ₄	L ₅
S 27	青木 成宗				
28	吉田 孝俊				
29	宮本 敏雄				
30	平野 三郎				
31	佐藤 吉弥				
	黒岩 藩				
32	大久保芳随				
33	神庭 明				
34	伏見栄次郎				
35	大久保芳随	北原 泰彦			
	笠井 武保				
36	神庭 明	大渡 正治			
	相川 祐三	植田 正昭			
37	伏見栄次郎	吉田 孝俊			
		藤田 明也			
38	大久保芳随	伏見栄次郎			
	加藤 計夫	我妻 功規			
39	神庭 明	板垣 光夫			
40	吉田 孝俊	伏見栄次郎	平野 三郎		
	渡辺 貞綱		高橋 新平		
41	大渡 正治	杉野 良知	石川 孝志	大久保芳随	
		野村 仁	村田 陽一	松井 努	
42	中島 輝夫	山田 宏明	磯辺 昭二	白川 守昭	
	光木 保臣	戸江 栄一		大館 敏夫	
43	神庭 明	石川 孝志	板垣 光夫	吉田 孝俊	
	上原 博通	宮沢 秀美	六反田和幸		

卒業 年次	全 日 制				
	普 通 科				
	L ₁	L ₂	L ₃	L ₄	L ₅
S 44	山田 宏明	磯部 昭二	中村 圭佑	大久保芳随	
	中村 悟	杉山 行男	渡辺 洋一	木伏 明人	
45	中島 輝夫	五十木基晴	則友 克敏	白川 守昭	
			菱田 豊彦		
46	杉野 良知	横 将	板垣 光夫	高久 広毅	茂木 雅博
47	大久保芳随	磯部 昭二	齋藤 成信	高久 広毅	
			浅見 正一		
48	中島 輝夫	人見 芳行	則友 克敏	白川 守昭	
	明石 弘一			佐藤 孝雄	
49	杉野 良知	板垣 光夫	石川 孝志	茂木 雅博	
	半田 孝		新井 建也	藤田 清	
50	杉野 良知	磯部 昭二	齋藤 成信	高久 広毅	山田 宏明
	黒田 正人		川島 正春		秋山 公一
51	石川 孝志	則友 克敏	人見 芳行	松岡 三夫	林 幸男
		安藤 政臣	石井 正一	種田 光利	柴山 仁
52	神庭 明	白川 守昭	板垣 光夫	中村 広幸	茂木 雅博
			小野木広行		石渡 上
53	杉野 良知	中村 圭佑	松岡 三夫	高久 広毅	齋藤 成信
		目黒 香一	松岡 俊和	相原 浩一	遠藤 史郎
54	石川 孝志	則友 克敏	磯部 昭二	生熊 勝彦	板垣 光夫
	宮木 真一				坂本 尚孝
55	大江 康男	齋藤 成信	人見 芳行	林 幸男	茂木 雅博
		花房 勳	貴田真一郎		生方 健二
56	五十木基晴	中村 圭佑	宮本 治	高久 広毅	白川 守昭
	大館 昭彦	沢田 勉	吉永 雅彦	糸川 剛	道伝 弘昌 森 孝志
57	大谷 稔	田上 光治	磯部 昭二	石川 孝志	板垣 光夫
	木村康二郎		小林良太郎	小野寺智幸	
58	大江 康男	石井 和之	高村 広昭	横 将	松岡 三夫
	岩本 健	及川 俊也	飯田 公司	岩井 厚	長堀 岳治
59	宮本 治	吉場 章二	高久 広毅	大谷 稔	白川 守昭
	鈴木 幹也 下間 靖浩	内藤 剛 中島 志彦	松島 克幸 野村 英道	藤原 国之 渡辺 泰幸	加藤 剛 矢津 洋一
60	山田 宏明	人見 芳行	林 幸男	磯部 昭二	山崎 晴康
	宮田 寛 向 裕次	高田 剛史 宮坂 茂春	京極 政宏	小宮山敏樹 腰原 潔	今中 繁 坂田 朝徳

卒業 年次	全 日 制						
	普 通 科						
	L ₁	L ₂	L ₃	L ₄	L ₅	L ₆	L ₇
S 61	古城 仁	則友 克敏	田上 光治	榎 将	吉場 章二	飯島 稔	
	小俣 憲一 藤森 克巳	海老沢 浩 西木 章員	服部 義郎	岩見田慎也 志村 祐幸	木斉 央 山田 賢二	安達 三博 横田 昇	
62	白川 守昭	向芝 京太	高久 広毅	齋藤 成信	平山 桂樹		
	大畑 和彦 渋谷 郁夫	森田 正明 佐々木 徹	佐藤 憲一 永井 智人	高橋 宏明 平石 真行	長谷川一之		
63	山崎 晴康	人見 芳行	高村 広昭	石川 孝志	山田 宏明	大谷 稔	
	高橋 政人 福島 修	三谷 哲也 鈴木 理裕	斎藤 貴治	小林 利行 阿由場宏之	杉本 哲也	長島 正美 中林 元	
H 1	中村 圭佑	林 幸男	田上 光治	向芝 京太	吉場 章二	飯島 稔	
	大石 洋治 坂本 和規	中西 勇人 小野 裕三	入江 睦也	青木 健 石井久仁彦	小暮 忠 神保 秀樹	小山 秀樹	
2	白川 守昭	山崎 武光	高久 広毅	宮本 治	生熊 勝彦	川口 純	平山 桂樹
	佐伯裕次郎 小山 克也	服部 正樹 林田 英明	河相 崇 村松 信秀	青木 義幸 中山 博	遠山 竹司 中村 孝一	田中 典明	高月 陽介 西山 隆
3	齋藤 成信	人見 芳行	高村 広昭	八百屋尚志	則友 克敏	山崎 晴康	
	和田 崇秀 高田 忍	沢田 和也 鈴木 正也	多胡 真宏 森 知一	大島 直樹 山外 一	浅野 貴行 大槻 直哉	藤井 宜彰 桜井 隆雄	
4	中村 圭佑	黒沼 康広	榎 将	田上 光治	向芝 京太	山崎 武光	飯島 稔
	横田 智寛 山口 潤	長澤 将章 吉田 浩康	五十嵐 哲哉 仁平 雅実	田沼 玲男 土屋 正明	戸部 拓也 矢古宇 卓	向後 隆産 中村 真也	田邊 敏宏 木野 岳人
5	L ₁₋₇ 高久 広毅	宮本 治	大谷 稔	川口 純	妹尾 敬	大久保 靖	
	永野 泰介 北川 研	小川 智成 田口 浩	飯塚 正基 鈴木 貴宏	中杉 俊之 山崎 啓誉	金子 泰夫 関口 昌宏	奥田 朋良 福田 弘明	
6	L ₁₋₈ 齋藤 成信	古城 仁	高村 広昭	前田 輝明	吉場 章二	L ₆₋₇ 山崎 晴康	
	小股 淳 小木 勇樹	沖 莊一郎 米田 睦仁	大野敬一郎 田島 俊彦	稲垣 洋行 長南 和夫	浦沢 誠一 中野 徳康	松井 竜作 松本 剛	
7	L ₁₋₈ 田上 光治	中村 清孝	人見 芳行	米山 裕	黒沼 康広	L ₆₋₇ 飯島 稔	
	田中 哲也 中西 俊輔	関口 雅人 古田 智久	伊藤 謙志 田村 智文	高嶋 譲 高橋 寛	北原 秀和 富澤 宗介	有馬 裕輔 竹内 将人	
8	宮本 治	八百屋尚志	上前 隆雄	大谷 稔	吉場 章二	L ₆₋₇ 平川 吉治	
	新井 政弘 石井 守	在田 亮二 若林 俊介	東 拓也 太田 達也	今井 亮介 高原 宗一	大井 亮祐 加藤 寛志	浅井 哲也 比留間 潤	
9	向芝 京太	妹尾 敬	飯島 稔	前田 輝明	松澤 俊也	L ₆₋₇ 高村 広昭	
	田所 覚 野口 智弘	清水 直広 中村 誠	渡田誠一郎 渡辺 学	工藤 太郎 松岡 雅之	三牧僚太郎 山崎 裕幸	宮澤 克則 小岩 慶仁	
10	向芝 京太	人見 芳行	古城 仁	山崎 晴康	加藤 学	川口 純	
	阿部 俊哉 小川 達也	今井 寛 高橋 堅二郎	今井 健詞 木村 明紀	金子 昌孝 金井浩太郎	茶屋道圭太 中田 勝也	高橋 雄一 永井隆太郎	
11	吉場 章二	平山 桂樹	米山 裕	前田 輝明	疋田 康之		
	小川 太介 白土 雅教	木村 太亮 比恵鳥 豊	内 直斗 松井 智	梅田 和弘 仲村 友宏	内木 亮平 横原 章仁		

卒業 年次	中 学 校		
	A	B	C
H 11	大久保 靖	樋田 毅	
	南元 大輔	杉本 寛朗	

平成11年度

幹事会議事録

期間：平成10年2月～9月

◆第382回幹事会

2月17日(水) 於校友会会議室

議事：1.記念事業の推進について

2.平成10年度事業・会計経過報告

3.平成11年度事業計画・予算について

4.朋友の発行について

◆第387回幹事会

9月8日(水) 於校友会会議室

議事：1.クラス委員再検討について

2.校友会理事選出結果について

3.記念事業の結果について

4.朋友の編集について

◆第383回幹事会・参与会

3月24日(水) 於校友会会議室

議事：1.平成11年度事業計画について

2.平成11年度予算案について

3.平成11年度総会・記念事業について

4.参与会

◆第384回幹事会

5月12日(水) 於校友会会議室

議事：1.平成11年度総会開催について

2.校友会評議員・理事候補推薦の件

3.記念事業について

4.しおり作成について

◆第385回幹事会

6月9日(水) 於校友会会議室

議事：1.平成11年度総会開催準備について

2.校友会・理事候補推薦の件

3.記念事業について

4.その他

◆第386回幹事会

6月30日(水) 於校友会会議室

議事：1.平成11年度役員選出の件

2.校友会評議員会について

3.記念事業の結果について

4.その他

平成11年度（第40回）総会報告

総会次第

- | | |
|-----------------------------|--------------------------|
| 1. 開会の辞 | ・第3号議案 平成11年度事業計画（案）承認の件 |
| 2. 会長挨拶 | ・第4号議案 平成11年度予算（案）承認の件 |
| 3. 名誉会長挨拶 | ・第5号議案 平成11・12年度幹事選出の件 |
| 4. 議長選出 | ・第6号議案 平成11・12年度会計監査選出の件 |
| 5. 議案 | 6. 閉会の辞 |
| ・第1号議案 平成10年度事業報告承認の件 | |
| ・第2号議案 平成10年度決算承認の件ならびに監査報告 | |

【第1号議案】

平成10年度事業報告承認の件

- | | |
|--|---|
| [1] 総会於小金井キャンパス平成10年6月6日 | [6] 新会員に同窓会活動について説明会（平成11年3月） |
| 1.平成9年度事業報告、決算報告、会計監査報告の承認 | [7] 新クラス委員となる人と幹事との懇談会（平成11年3月） |
| 2.平成10年度事業計画案、予算案の審議および承認 | [8] 入学記念品として、ネクタイピンを贈呈（平成10年4月） |
| 3. 役員改選（平成10・11年度） | 卒業記念品「証書挟み」贈呈（平成11年3月） |
| 4. 会則改定の件 | [9] クラス会を開催するクラスに補助金として10,000円を支給（23件） |
| [2] 創立40周年記念事業の推進 | [10] クラブOB会を開催するクラブに補助金として10,000円を支給（3件） |
| [3] 同窓会誌「朋友」1998年版の発行 | [11] 準会員活動、武蔵野祭優秀展示作品の奨励
体育祭、文化講演会、クラブ活動等の活動援助 |
| [4] 平成10年度クラス委員に委嘱状と承諾書の発送・回収（平成10年5月） | [12] 卒業生招待会の協力（7月） |
| [5] 同窓会幹事・教職員・クラス委員懇談会（平成10年11月） | |

【第2号議案】

平成10年度決算報告

（平成10年4月1日～平成11年3月31日）（単位：円）

収入		支出	
科目	金額	科目	金額
入会金 (3,600円×399名)	1,436,400	事業費	910,958
補助金	500,000	総会費	74,498
利子・配当金	1,091	教職員・クラス委員懇談会費	227,230
雑収入	100,169	クラス会補助金	230,000
		クラブOB会補助金	30,000
		同窓会誌製作発行費	249,230
		新クラス委員懇談会費	100,000
		会議費	246,286
		事務通信費	43,500
		諸費	204,685
		予備費	0
		記念事業基金	0
小計	2,037,660	小計	1,405,429
前期繰越金	463,646	次期繰越金	1,095,877
収入合計	2,501,306	支出合計	2,501,306

記念事業基金目録（平成11年3月31日現在）（単位：円）

項目	内容	金額
基金財産	中期国債ファンド	2,500,000
※記念事業基金として法人より¥500,000の補助金がありました。		

平成10年度準会員事業基金運用報告

（平成10年4月1日～平成11年3月31日）（単位：円）

科目	実績	科目	実績
クラブ活動奨励費	982,170	全学行事	928,360
木製レーキラワン・ナイロンブラ	143,850	在校生名簿作成費	175,140
テニスボールカゴキャスター付	68,040	体育祭奨励費（参加賞）	150,000
防球フェンス	245,280	文化祭奨励費（優秀部門表彰）	53,000
芝刈機・整地機グラウンドレーキ	525,000	同窓会誌製作発行（在校生分）	355,850
優秀団体表彰	0	文化講演会講演料補助	0
		文化講演会録製作費	0
		卒業式副賞費	194,370
		卒入学記念品費	433,569
		入学記念品費（キーホルダー）	278,800
		卒業記念品費（証書挟み）	154,769
		合計	2,344,099

【第3号議案】

平成11年度事業計画（案）承認の件

- | | |
|---|---|
| [1] 総会 於小金井キャンパス 平成11年6月19日 | [6] 同窓会幹事・教職員・クラス委員懇談会 |
| 1.平成10年度事業報告、決算報告、会計監査報告の承認 | [7] 新会員に同窓会活動について説明会（平成12年3月） |
| 2.平成11年度事業計画案、予算案の審議及承認 | [8] 新クラス委員となる人と幹事との懇談会（平成12年3月） |
| 3.役員改選（平成11・12年度） | [9] 入学記念品として、キーホルダーを贈呈（平成11年4月） |
| 4.その他 | 卒業記念品「証書挟み」贈呈（平成12年3月） |
| [2] 創立40周年記念事業（東京電機大学高等学校開設60周年記念） | [10] クラス会を開催するクラスに補助金として10,000円を支給 |
| [3] 同窓会拡大幹事会（クラス委員含む）の開催 | [11] クラブOB会を開催するクラブに補助金として10,000円を支給 |
| [4] 同窓会誌「朋友」1999年版（創立40周年記念号）の発行 | [12] 準会員活動、武蔵野祭優秀展示作品の奨励
体育祭、文化講演会、クラブ活動等の援助 |
| [5] 平成11年度クラス委員に委嘱状と承諾書の発送・回収、クラス委員名簿改訂 | |

〔第4号議案〕

平成11年度予算(案)

(平成11年4月1日～平成12年3月31日)

(単位:円)

収入		支出	
科目	金額	科目	金額
入会金	1,486,800	事業費	1,850,000
3,600×358名(高校)	1,288,800	総会費	200,000
3,600×55名(中学)	198,000	教職員・クラス委員懇談会費	250,000
補助金	500,000	クラス会補助金	400,000
補助子配当金	1,500	同窓会誌製作発行費	750,000
雑収入	100,000	新クラス委員懇談会費	150,000
記念事業基金	2,500,000	会議費	300,000
		事務通信費	150,000
		諸費	250,000
		予備費	584,177
		記念事業準備金	50,000
		記念事業費	2,500,000
小計	4,588,000	小計	5,684,177
前期繰越金	1,095,877	次期繰越金	0
収入合計	5,684,177	支出合計	5,684,177

※記念事業への補助として法人より¥1,000,000交付される予定です。

平成11年度準会員事業基金運用報告(案)

(平成11年4月1日～平成12年3月31日)

科目
クラブ活動奨励費
優秀団体表彰
全学行事
在校生名簿作成費
体育祭奨励費(参加費)
文化祭奨励費(優秀部門表彰)
同窓会誌製作発行(在校生分)
文化講演会録製作費
卒業式副賞
卒入学記念品費
入学記念品費(キーホルダー)
卒業記念品費(証書挟み)

〔第5号議案〕

平成11・12年度幹事選出の件

氏名	卒年
池ヶ谷道夫	昭和20
間川清太郎	昭和29
清水岩生	昭和20
岩崎昭二	昭和20
見崎正行	昭和35
萩原宏芳	昭和37
石崎泰司	昭和37
串橋幸保	昭和37
小林博	昭和39
加藤藤己	昭和40
村田耕治	昭和40
田中秀定	昭和40
柴田耕一	昭和41
渡辺敏章	昭和48
須賀寛光	昭和49
河野吉伸	昭和53
内山章夫	昭和54
池田秀浩	昭和54
深津靖史	平成2

・平成10・11年度幹事として 平野 修一(昭和49年卒)
(昨年度記載もれ)

〔第6号議案〕

平成11・12年度会計監査選出の件

加藤 栄治(昭和30年卒)

東京電機大学中学・高等学校同窓会会則

- 第1章 名称および事務所所在地
- 第1条 本会は東京電機大学中学・高等学校同窓会と称す。
- 第2条 本会は主たる事務所を東京都千代田区神田錦町1-4東京電機大学校友会に、従たる事務所を東京都小金井市梶野町4-8-1東京電機大学中学・高等学校内に置く。
- 第2章 目的
- 第3条 本会は会員相互の親睦を図り併せて会員の母校との連繫を密にして母校の発展に寄与し、また東京電機大学校友会の事業遂行に協力するを以て目的とする。
- 第3章 会員
- 第4条 本会の会員は正会員、準会員、特別会員よりなる。
- 2 正会員は東京電機大学中学校、東京電機大学高等学校、東京電機工業高校、電機第一工業学校、同併設中学校、電機第二工業学校、同併設中学校、電機学園高等学校の卒業生とする。
- 3 準会員は東京電機大学中学校、東京電機大学高等学校の在校生とする。
- 4 特別会員は東京電機大学中学校、東京電機大学高等学校の教職員および退職教職員ならびに本会に特に功労あるものにして幹事会の推薦によるもの。
- 第5条 準会員、特別会員は議決権、選挙権、被選挙権を有しない。
- 第4章 役員
- 第6条 本会には次の役員を置く。
- 一 名誉会長1名
- 二 顧問および参与若干名
- 三 幹事25名以上50名以内(うち、会長1名、副会長2名、会計、庶務各若干名を含む)会計監査2名
- 四 クラス委員を各クラス2名、地域委員を各地域同窓会1名を置くことができ

- る。
- 第7条 名誉会長、顧問および参与は本会の求めに応じて意見を述べるができる。
- 2 会長は本会を代表し、会務を総括し、幹事会の議長となる。
- 3 副会長は会長の任務を補佐し、会長事故ある時はこれを代行する。
- 4 会計は本会の会計を担当する。
- 5 庶務は本会の庶務を担当する。
- 6 幹事は会務を分担し、会の運営に当たる。
- 7 地域委員は地域同窓会を、クラス委員はクラス会を開催し、会との連絡を緊密にし、会の発展を図る。
- 第8条 会長、副会長の任期は2ヶ年とし再選を妨げない。
- 2 幹事および会計監査の任期は2ヶ年とし、毎年半数を改選する。但し再任を妨げない。
- 3 前1項および2項以外の役員の任期は1ヶ年とし再任を妨げない。
- 4 役員に欠員を生じ、会の運営に支障あるときは補充することができる。但し任期は前任者の残任期間とする。
- 第5章 会合
- 第9条 総会は毎年1回会長これを招集し本会の事業経過計画案、幹事および会計監査の承認、収支決算予算案の報告ならびに議決をおこなう。
- 第10条 幹事会は会長、副会長、幹事から成り、必要に応じて会長はこれを招集し、会務を審議決定する。
- 2 クラス委員会、地域委員会は、それぞれクラス会、および地域同窓会の要望事項を協議し、幹事会に提案する。
- 3 クラス会、地域同窓会およびその他の会は随時に開催できる。各会を開催した場合は会長に結果を報告する。
- 第11条 幹事会の議決は出席人員の過半数の賛

- 成を必要とする。
- 第12条 本会の業務遂行上必要あるときは、幹事会の議決により特別の委員会を設けることができる。
- 第6章 会費および会計
- 第13条 本会に入会するものは会費を納入するものとする。
- 2 本会の会費は東京電機大学校友会費の納入を以てこれを認める。
- 第14条 諸会合に要する経費は、その実費を徴収することができる。
- 第15条 会計監査は、本会の会計を監査する。
- 第16条 本会の会計年度は、毎年4月1日に始まり翌年3月末日に終わる。
- 第7章 会則の改正その他
- 第17条 本会則の改正は総会の議決を要する。
- 第18条 本会の運営上必要と認めるときは細則を設けることができる。

- 付 則
- 1 本会則は昭和35年4月17日より施行する。
- 2 昭和46年 5月15日第6条四項一部改正
- 昭和47年 6月27日第6条一項一部改正
- 昭和50年 6月 7日第13条一項一部改正
- 昭和56年 6月27日全面改正
- 昭和57年 6月26日第13条一項一部改正
- 昭和60年 6月22日一部改正
- 平成4年 6月20日全面改正
- 平成9年 6月21日一部改正

東京電機大学中学・高等学校 同窓会会則細則

- 第1条 名誉会長には東京電機大学高等学校長を推薦する。
- 2 顧問は特別会員の中から、幹事会にて推薦する。
- 3 参与は会長（旧会則による幹事長を含む）の経歴のあるもの、または幹事（旧会則による常任幹事を含む）の経歴のあるもので幹事会の承認を得たもの。
- 4 会長および副会長は幹事会の互選で定める。
- 5 会計および庶務は幹事会の互選で定める。
- 6 クラス委員はクラス会より選出する。
- 7 地域委員は地域同窓会より選出する。
- 8 会則第12条による委員会の委員は幹事会の推薦により定める。
- 第2条 本会の会費は、東京電機大学校友会の規約に定めるところによる。
- 第3条 本細則の改正は幹事会の議決を要する。
- 付 則
- 1 本細則は昭和35年4月17日より実施する。
- 2 昭和56年6月27日全面改正
- 3 昭和60年6月22日全面改正
- 4 平成4年6月20日全面改正

編 集 後 記

今年度の朋友は、さる6月19日に行われた「高等学校開設60周年記念」の特集号です。記念式典の報告を始め、小谷大学長の記念講演も完全収録しました。

毎年あわただしい中での編集作業ですので、今回も思わぬミスがあるかもしれません。皆様のご寛恕を願うしだいです。

また、この場を借りて原稿執筆にご協力いただいた方々に御礼申し上げます。有り難うございました。

編集委員

平成11年12月20日発行（非売品）

〔編集兼発行所〕

東京電機大学中学・高等学校同窓会

住所：東京都千代田区神田錦町1の4

東京電機大学校友会

電話：03（5280）3512

東京電機大学中学・高等学校

住所：東京都小金井市梶野町4-8-1

電話：0422（37）6441（代）